

看護学科

1年次科目

【必修科目】

看護学概論Ⅰ	7	生命倫理	11
看護学概論Ⅱ	7	社会福祉論	11
看護病態生理学(病理学)	8	感染・免疫学	26
構造機能学Ⅰ(解剖学)	8	【選択科目】	
構造機能学Ⅱ(生理学)	9	構造機能学演習Ⅰ(解剖学)	9
生化学	12	構造機能学演習Ⅱ(生理学)	10
保健医療福祉行政論	10		

2年次科目

【必修科目】

医療英語 a	81	実践基礎援助学(急性期看護学概論)	36
医療英語 b	82	実践基礎援助学(慢性期看護学概論)	36
看護基礎援助学Ⅰ(人間関係論)	27	成長発達看護学(成人)	37
看護基礎援助学Ⅱ(日常生活援助技術論)	27	成長発達看護学演習(成人)	37
看護基礎援助学Ⅲ(日常生活援助技術演習)	28	成長発達看護学(高齢者)	38
看護基礎援助学Ⅳ(ヘルスアセスメント論)	28	成長発達看護学(小児)	38
看護基礎援助学Ⅴ(ヘルスアセスメント演習)	29	成長発達看護学(母性)	39
看護基礎援助学Ⅵ(診療援助技術論)	29	精神看護学Ⅰ	39
看護基礎援助学Ⅶ(診療援助技術演習)	30	地域看護学Ⅰ	40
看護病態生理学(内科学)	30	薬理学	41
看護病態生理学(神経内科学/小児科学)	31	家族発達看護学	42
看護病態生理学(脳神経外科学/精神科学)	31	ヘルスプロモーション看護論	42
看護病態生理学(外科学)	32	看護疫学	43
看護病態生理学(周産期学)	32	健康管理論	75
基礎看護学実習Ⅰ	33	【自由科目】※卒業単位には含まれない	
基礎看護学実習Ⅱ	34	学校保健	43
実践基礎援助学(看護過程)	35	生徒指導	44
実践基礎援助学(看護過程演習)	35	養護概論	45

3年次科目

【必修科目】

実践基礎援助学(急性期看護学各論)	84	リハビリテーション看護学	88
実践基礎援助学(慢性期看護学各論)	84	精神看護学Ⅱ	89
公衆衛生学	85	臨地看護学実践実習(成人慢性期)	89
在宅看護学	85	臨地看護学実践実習(成人急性期)	90
在宅看護学演習	86	臨地看護学実践実習(母性)	90
成長発達看護学演習(小児)	86	臨地看護学実践実習(小児)	91
成長発達看護学演習(母性)	87	臨地看護学実践実習(高齢者)	91
成長発達看護学演習(高齢者)	87	臨地看護学実践実習(精神)	92
看護研究	88	臨地看護学実践実習(在宅)	92

4年次科目

【必修科目】

卒業研究Ⅰ	134	国際保健医療比較論	164
総合臨地看護学実習	134	卒業研究Ⅱ	140
看護管理学	135	災害保健科学概論	165
看護管理学実習	135	【自由科目】※卒業単位には含まれない	
ヘルスアセスメント実践演習	136	障害者とスポーツ論	168
地域看護学Ⅱ	136	公衆衛生看護実践論	141
ホスピス緩和ケア論	137	公衆衛生看護技術論	142
看護倫理学	137	公衆衛生看護管理論	142
【選択科目】		公衆衛生看護学実習	143
英文文献講読	138	教職実践演習(養護教諭)	145
医療経済学	138	養護実習事前事後指導	144
災害看護学	139	養護実習Ⅰ	144
ケアマネジメント論	139	養護実習Ⅱ	145
国際看護学	140		

科目名	M052 看護学概論 I	科目種別	看護・1年・必修	単位数	1
担当教員	習田 明裕、野村 亜由美、三輪 聖恵	前期・前半		火曜日	4 時限
①授業方針・テーマ	①看護の主要な概念や理論、看護実践における知識・技術、看護実践の評価などの視点から、学問としての看護を考える。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・看護の役割と機能について理解する。 ・看護実践における知識・技術・態度とその評価について考える。 ・看護の理論的枠組みを理解し、メタパラダイム「看護」「人間」「健康」「環境」を自分の言葉で述べる。				
③授業計画・内容	③第1回 看護学概論 I ガイダンス、看護とは、看護の役割と機能 第2回 病いと健康の歴史 第3回 看護理論概説 第4回 看護理論：看護の理論家とその業績 第5回 看護過程／研究的取り組み・看護診断を行う責任 第6回 看護の技術 第7回 看護における倫理と価値				
④テキスト・参考書	④教科書 ・志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編：基礎看護学：看護学概論，メディカ出版，2016 参考書 ・井上智子，武田利明，菱沼典子編：看護の原理-看護することの本質と魅力，ライフサポート社，2009 ・V.ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，1995 ・F.ナイチンゲール：看護覚え書(第6版)，現代社，2000 ・アン・マリナー・トメイ，他：看護理論家とその業績(第3版)，医学書院，2004				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(70%)、課題レポート(20%)、授業への参加状況(10%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥看護学科 1 年次生対象の必修科目である。 本科目を履修しないと基礎看護学実習 I 及び基礎看護学実習 II を履修することができない。				

科目名	M294 看護学概論 II	科目種別	看護・1年・必修	単位数	1
担当教員	習田明裕、石川陽子、野村亜由美、前田耕助	後期・前半		水曜日	4 時限
①授業方針・テーマ	①看護がもつ社会的機能・役割を理解し、保健医療福祉の専門職として、人々の健康・生活へどのようにアプローチしていくかを考える。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②看護実践に関する法律や倫理綱領を理解し、あらゆる対象のニーズを充足するための看護技術、看護のアプローチの方法、および看護職が働く場について学習する。その中で、看護の本質、看護独自の役割について考え、看護の今後の方向性を掴む。				
③授業計画・内容	③第1回 看護学概論 II ガイダンス、人間の健康 第2回 看護の対象 第3回 保健、医療、福祉システム・看護における法的側面 第4回 看護の教育・組織・基準・看護サービス評価 第5回 看護における知識・技術：マネジメント(医療安全) 第6回 国際看護活動 第7回 今後の看護の在り方・まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書 ・志自岐康子，松尾ミヨ子，習田明裕編：基礎看護学：看護学概論，メディカ出版，2016 参考書 ・看護六法，新日本法規出版，2014 ・看護統計資料集，日本看護協会出版会，2014				
⑤成績評価方法	⑤試験試験(80%)出席、授業への参加状況等(20%)による総合評価				
⑥特記事項	⑥看護学科 1 年次生対象の必修科目である。 本科目を履修しないと基礎看護学実習 I 及び基礎看護学実習 II を履修することができない。				

科目名	M291 看護病態生理学(病理学)	科目種別	看護・1年・必修	単位数	2
担当教員	千葉 諭 *	後期	金曜日	1時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①②ヒトの疾病の多様な病因と病態を学び、人体組織の形態学的及び機能的変化を理解して、疾患概念を総合的に把握する。さらに、それらの知識を看護実践にどう応用するかを学ぶ。</p> <p>③ 1回 病理学と医療 細胞とその変化 2回 病因論 3回 修復と再生 進行性病変 4回 循環障害 5回 炎症 6回 免疫 7回 感染症 8回 奇形・発達異常 9回 移植と再生医療 10回 代謝異常 11回 腫瘍(1) 12回 腫瘍(2)発癌 13回 腫瘍(3) 14回 形態と病気 15回 試験</p> <p>④「クイックマスター病理学」 堤寛著,2015 サイオ出版 ⑤筆記試験の成績にて評価する。 ⑥看護学科1年次生対象の必修科目である。 複数教員によるオムニバス科目である。</p>				

科目名	M290 構造機能学 I (解剖学)	科目種別	看護・1年・必修	単位数	2
担当教員	易 勤	前期	水曜日	1時限	
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①解剖生理学は医学の基本的な知識を学ぶ医学医療の入門科目である。本科目は主に解剖学を中心として人体の基本構造を解説する。</p> <p>②人体は器官群の精巧な配列の組み合わせにより成り立っている。骨格系、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系の各系統に分けられている。これらの系統を総論的に学習し、人体の構造に関する基礎的知識を習得することを目標とする。</p> <p>③以下の項目を15回の講義で行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体構造の概要:解剖学用語・器官・器官系 2. 人体構造の素材:細胞・組織 3. 骨格系:骨学総論・骨学各論 4. 筋系:筋系の総論・骨格筋各論 5. 循環器系:心臓・動脈系・静脈系・リンパ系 6. 呼吸器系:気道・肺 7. 消化器系:消化管—口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肛門 8. 消化器系:消化腺—唾液腺・肝臓・胆嚢・膵臓 9. 泌尿器系:腎臓・尿管・膀胱・尿道 10. 生殖器系:男女の生殖道・精巣・卵巣・副生殖腺 11. 感覚器系:皮膚・視覚器・平衡感覚器・聴覚器・味覚器・嗅覚器 12. 内分泌系:下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・精巣・卵巣 13. 中枢神経系:大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄 14. 末梢神経系:脳神経・脊髄神経・自律神経系 15. 人体解剖学見学実習(土曜日) <p>④テキスト: 坂井建雄・岡田隆夫 著「人体の構造と機能 解剖生理学」医学書院 参考書: 林正健二 編集「人体の構造と機能 解剖生理学」メディカ出版</p> <p>⑤受講態度(10%)および筆記試験(90%)によって評価する ⑥国家試験科目であり、必修である。</p>				

科目名	M295 構造機能学Ⅱ(生理学)	科目種別	看護・1年・必修	単位数	2
担当教員	渡辺 賢	前期	月曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	①構造機能学Ⅱは、人の体の「しくみ」を考えます。人間は個体として生きていることはもちろんですが、器官、組織、そして細胞に至るまで、それぞれに生命の「しくみ」を持っています。どのレベルにおいても、生きるためには、複雑に組み合わさった非常に多くの部品(例えば個々の遺伝子や分子)が正しく働かなければなりません。その部品を統合し制御する「しくみ」を自然科学(生理学)の立場から追求します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人体を構成している諸器官・臓器の正常な機能とそれらの調節・制御機構を理解します。最終的には自然科学の目から統合的に人体を把握できることが目標です。				
③授業計画・内容	③ 1: 恒常性の維持とは何か? 2: 細胞のはたらき 3: 細胞内、細胞間の情報伝達システム 4: 興奮性細胞の一般的性質 5: 運動と筋肉 6: 中枢神経とそのはたらき 7: 感覚と恒常性維持の関係 8: 体液(分布 組成)と血液 9: 呼吸(呼吸運動、ガス交換、呼吸調節) 10: 循環(心臓の自動能と収縮性、心電図の基礎、血管機能と血圧) 11: 尿産生と排泄(腎糸球体でのろ過と再吸収・分泌、排尿) 12: 消化・吸収・代謝(消化、終末消化と吸収の機構、肝機能、消化管運動、排便) 13: 内分泌(各ホルモンの作用と分泌調節) 14: 生殖(男性生殖器・女性生殖器の基本機能、受精と妊娠・分娩) 15: まとめ できるだけ講義中に簡単なクイズを行います。又、課題を解き、纏めて表す力を涵養するため、定期的に文章題を提示いたします。				
④テキスト・参考書	④<<系統看護学講座 専門基礎分野>>人体の構造と機能[1] 解剖生理学(第8版) 坂井建雄/岡田隆夫著 医学書院刊。また、講義資料を毎回配布致します 参考書は講義中に紹介します。				
⑤成績評価方法	⑤受講態度(10%)、並びに筆記試験(90%)で評価します。				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日・時間を変更することがあるので注意してください。 後期開講の構造機能学演習Ⅱ(生理学)では、本講義を踏まえ、更に深く生理現象に挑みます。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M311 構造機能学演習Ⅰ(解剖学)	科目種別	看護・1年・選択	単位数	1
担当教員	易 勤	後期	月曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①発生学および臨床応用の視点から人体構造の各論を解説する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②総論的講義が多かった構造機能学Ⅰを基礎とし、「構造機能学演習Ⅰ」では各論の講義でより深い理解を目標とする。				
③授業計画・内容	③項目 1. 骨学各論: 頭蓋骨・脊柱・骨盤・胸郭・四肢骨 項目 2. 筋学各論: 頭頸部の筋・体幹の筋・四肢の筋 項目 3. 脈管系: 心臓・動脈系・静脈系・リンパ系 項目 4. 呼吸器系: 鼻腔, 喉頭, 気管, 気管支, 肺 項目 5. 消化器系: 消化管 項目 6. 呼吸器系: 消化腺 項目 7. 泌尿器系・生殖器系 発生と性差 項目 8. 中枢神経系 ①大脳, 間脳 ②脳幹, 脳室系, 脳脊髄液 項目 9. 末梢神経系 ①脳神経 ②脊髄神経 ③自律神経				
④テキスト・参考書	④テキスト: 坂井建雄・岡田隆夫 著「人体の構造と機能 解剖生理学」医学書院				
⑤成績評価方法	⑤受講態度(10%)および筆記試験(90%)によって評価する。				
⑥特記事項	⑥選択科目であるが、国家試験科目であるので受講が望ましい。				

科目名	M310 構造機能学演習Ⅱ(生理学)	科目種別	看護・1年・選択	単位数	1
担当教員	渡辺 賢	後期	月曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	①構造機能学Ⅱ(生理学)演習は、構造機能学Ⅱ(生理学)で学んだ人の体の「しくみ」をより深く考えます。さまざまな生命の「しくみ」が統合されて一個体として「生きる」ことを体得できる力を身につけることを目的として、一部実習も取り入れながら演習を行います。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人体を構成している器官系の正常な機能とそれらの調節・制御機構を、統合的に理解します。最終的には自然科学の目から統合的に人体を把握でき、更に看護病態学を学ぶ基礎学力を身につけることが目標です。				
③授業計画・内容	③ 1: 自律神経系 2: 生体防御システムとその異常 3: 脳の高次機能 4: 循環調節 5: 腎機能と恒常性維持 6: 心電図 7: 細胞膜と生体電気 8: シナプス伝達と神経経路 9: 遺伝 10: まとめ 1つの項目が 数回にわたって開講されることがあります。又、学生諸君の希望も取り入れ、講義内容及び順序が変更する可能性があります。 5: 腎機能と恒常性維持、6: 心電図については、履修者が希望する場合、荒川キャンパスにおいて実際に心電図、腎機能の測定を行う実習形式の演習を実施致します。その場合は、他の授業科目や履修者の都合等を配慮して、休暇・補講期間等を利用して(数回開催のうちどれか 1 回参加する形式で)実施致します。				
④テキスト・参考書	④<<系統看護学講座 専門基礎分野>> 人体の構造と機能[1] 解剖生理学(第8版) 坂井建雄/岡田隆夫著 医学書院刊。余裕のある人は生理学テキスト(第6版) 大地陸男著 文光堂刊を読むことを勧めます。また、講義資料を毎回配布致します。 参考書は講義中に紹介します。				
⑤成績評価方法	⑤受講態度(10%)、並びにレポート(90%)で評価します。				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日・時間を変更することがあるので注意してください。 本講義の履修には、構造機能学Ⅱ(生理学)の単位を修得済みであることが必要です。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M293 保健医療福祉行政論	科目種別	看護・1年・必修	単位数	1
担当教員	和泉澤 千恵 *	前期・前半	木曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	①医療をとりまく各種法規の理解を通じて、医療全体における各法規の位置づけを把握する。講義は配布レジュメに基づいた口頭の講義によって行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②医療をとりまく状況は時代やニーズによって変化し続けているといえよう。このように変化する医療現場において、自らの業務の在り方を考えるためには、医療の理念や、医療を提供する施設・人に関する制度、医療従事者等の業務内容などについて規定する法規を概観し、理解しておくことが必要である。また、それら法規が医療全体においてどのような位置づけにあるかを理解することも必要不可欠である。 各種法規の理解を通じて職種をとりまく状況・課題を検討する一助となるような講義を行うことを目標とする。				
③授業計画・内容	③第一回: 関係法規…法とは何か? 衛生法規とは何か? 第二回: 「基本理念」と「場」に関する法規…医療の基本理念と医療を行う場所に関連する法規 第三回: 「人」に関する法規…医療関係者に関連する法規 第四回: 「人」に関する法規と訴訟…看護過誤に関連する裁判例 第五回: 「物品」に関する法規…医療に用いられる物品の製造・販売などに関連する法規 第六回: 公衆衛生・福祉に関する法規…保健・予防・環境・社会保障に関連する法規 第七回: 労働に関する法規…労働に関連する法規 第八回: まとめ、試験 ※なお、内容が多岐にわたるため、講義進度によっては扱えない内容が生じる場合がある。				
④テキスト・参考書	④テキスト・参考書毎回レジュメを配布する予定である。テキスト、参考書等については購入しなくてもよい(テキストについては、所持していることが望ましいが、初回講義の説明を聞いた上で、各自、テキスト購入の有無を検討のこと)。詳しくは初回の講義時に説明する。 * テキスト(必ずしも購入を要さない): 森山幹夫「統計看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令[第48版]」医学書院 * 参考書等: 「医療六法平成28年度版」中央法規、などの法令集 ・金川琢雄「医療スタッフのための実践医事法学」金原出版株式会社 ・菅野耕毅「医事法学概論 第2版」医歯薬出版株式会社 ・久々湊晴夫・旗手俊彦 編著「はじめての医事法」成文堂 など				
⑤成績評価方法	⑤第八回授業で実施する筆記試験の成績のみによって評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M296 生命倫理	科目種別	看護・1年・必修	単位数	1
担当教員	奈良 雅俊 *	後期・前半	木曜日		4 時限
①授業方針・テーマ	①この授業では、人の尊厳や人権を尊重することの意味と医療への適用について学びます。また、医学の進歩と新しい医療技術がもたらした倫理的問題について学びます。これらを通して人間性への深い理解をめざします。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人間の尊厳と人権の意味を理解する。 生命の誕生や終末期をめぐる倫理的問題について説明することができる。 生命倫理(医療倫理)の原則や基本的な概念について説明することができる。				
③授業計画・内容	③第1回 生命倫理(学)の誕生 第2回 人格の尊重と医療への適用: インフォームド・コンセント 第3回 プライバシーの尊重と医療への適用: 守秘義務と個人情報保護 第4回 医療倫理の4原則: よい医療のための倫理原則 第5回 医療者と患者の関係について考える 第6回 生命の誕生をめぐる倫理的問題について考える 第7回 生命の終わりをめぐる倫理的問題について考える 第8回 試験				
④テキスト・参考書	④テキストは使用しません。プリントを配布します。 参考書: 赤林朗編、入門・医療倫理 I、勁草書房、2005年。 これ以外の参考書は各回の講義に紹介します。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(80%)と出席(20%)により評価します。				
⑥特記事項					

科目名	M297 社会福祉論	科目種別	看護・1年・必修	単位数	1
担当教員	柳田 正明 *	前期・前半	金曜日		4 時限
①授業方針・テーマ	①社会福祉の理念と基本的な制度について理解し、生活問題に関する社会福祉の課題とそれに対応するための実践技術(ソーシャルワーク)について理解する。社会福祉学は実践の学といわれるのでリアリティをもって伝えるため映像教材を多用する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②社会福祉の課題をもつ対象者への状況の理解および支援の必要性について知り、看護師として福祉専門職との連携が可能な知識を得る。				
③授業計画・内容	③1回目: 社会福祉論理念と変遷について解説する。 2回目: 児童福祉、特に虐待に焦点を当てて解説する。 3回目: 高齢者福祉、特に介護保険について解説する。 4回目: 障害児福祉、特に発達障害について解説する。 5回目: 障害者福祉、特に障害者総合支援法について解説する。 6回目: 地域福祉(社会的排除など)について解説する。 7回目: 関連領域(特別支援教育など)について解説する。 8回目: 試験+解説				
④テキスト・参考書	④テキストは福祉制度変更が多いため1年次科目として、特に指定しない。プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤期末試験 70%、出席 30%				
⑥特記事項					

科目名	M055 生化学	科目種別	看護・1年・必修	単位数	1
担当教員	渡辺 賢	後期・前半	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	①生化学は、人体を物質の観点から探る学問です。生命活動に必要な物質、特に有機化合物の性質と働き、更に体内におけるそれらの物質の変化(代謝)を学ぶことで、生命活動の本質を追求します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②生命活動に必要な物質の機能と、それらの代謝機構を理解することが目標です。				
③授業計画・内容	③項目1: 遺伝子情報の維持と発現 (DNA の構造と複製、RNA の構造と合成、タンパク質合成) 項目2: タンパク質の構造と機能 項目3: 酵素 項目4: 中間代謝-1 (生体エネルギー学と酸化的リン酸化、糖質とは、解糖系) 項目5: 中間代謝-2 (トリカルボン酸回路、糖新生、グリコーゲン代謝) 項目6: 脂質代謝 項目7: 窒素代謝 (アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝) 項目8: 細胞内と細胞間の情報伝達、まとめ 課題を解き、纏めて表す力を涵養するため、定期的に文章題を提示いたします。				
④テキスト・参考書	④参考書: 特に指定しません。自分で読んで分かり易い生化学の教科書を一冊購入して熟読することを勧めます。				
⑤成績評価方法	⑤定期試験(90%)、受講態度(10%)				
⑥特記事項	⑥祝日や教員出張等により講義日・時間を変更することがあるので注意してください。 ⑦質問等は渡辺 賢 masaru@tmu.ac.jp まで願います (@は半角に変えてください)。				

科目名	M027 看護基礎援助学Ⅰ(人間関係論)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	野村 亜由美	前期・前半	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①人間関係をとおして自己および他者の理解を深めるとともに、看護における「積極的関心」と「援助的関係」の意味を考える。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・他者とのコミュニケーションにおける相互作用の意味を理解する。 ・対人関係の基盤となる知識・技術・態度について考える。 ・看護における積極的関心について自分の意見を述べる。 ・看護における援助的関係について自分の意見を述べる。 ・医療チームのメンバーとしてのコミュニケーション能力の基礎を習得する。				
③授業計画・内容	③第1回 コミュニケーションとは 第2回 看護におけるコミュニケーションの意義 第3回 看護コミュニケーションの基盤(人間対人間確立) 第4回 自分を知ること/表現すること-相手を理解すること/関係を築くこと(プロセスレコード) 第5回 看護コミュニケーションの主要素(聞くこと/聴くこと・話すこと・傍らに在ること) 第6回 看護コミュニケーションの展開-患者からの一言 第7回 専門職におけるコミュニケーション能力①(体験の言語化と情報共有①:報告・連絡・相談) 第8回 専門職におけるコミュニケーション能力②(体験の言語化と情報共有②:カンファレンス)				
④テキスト・参考書	④テキストは設定せず、参考書を適宜紹介する。 参考書 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕編: ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術, メディカ出版, 2016 高橋清美・編著: 基礎からステップアップ看護コミュニケーション-はじめての看護実習, へるす出版, 2014 奥山美奈著: 知識と実践がつながる看護学生のためのコミュニケーション Lesson, メディカルフレンド社, 2011 アーネSTEIN・ウィーデンバック著: コミュニケーション-効果的な看護を展開する鍵, 日本看護協会出版会, 2007 福沢周亮, 桜井俊子編著: 看護コミュニケーション-基礎知識と実際, 教育出版, 2006 長谷川雅美編集: 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード-プロセスレコードが書ける、読める、評価できる本, 日総研出版, 2001				
⑤成績評価方法	⑤課題レポート(50%)、授業への参加状況(50%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥・講義・演習時間以外にも、かなりの自己学習の時間を要する。 ・時間毎に、授業内容(予習・復習)を踏まえた課題の提出を求める。 ・本科目の単位を修得しないと、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M033 看護基礎援助学Ⅱ(日常生活援助技術論)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	野村亜由美、三輪聖恵、前田耕助、習田明裕	前期・後半	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①対象者に提供される「日常生活に関する援助技術」について、その科学的根拠および理論的枠組みを踏まえて基礎的な知識を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・日常生活の援助を受ける対象者を理解する。 ・科学的根拠に基づき確実かつ安全・安楽に看護技術を提供するための基本的知識(原理・原則)を習得する。				
③授業計画・内容	③第1回 日常生活を援助する技術 第2回 快適な環境をつくる援助技術 第3回 安全を守る援助技術 第4回 効率的で安楽な動きを作り出す援助技術 第5回 活動・運動・休息・睡眠を促す援助技術 第6回 身体の清潔を援助する技術 第7回 食事・栄養摂取を促す援助技術清潔の援助技術 第8回 自然な排泄を促す援助技術				
④テキスト・参考書	④教科書 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕編: ナーシンググラフィカ基礎看護学③; 基礎看護技術, メディカ出版, 2016 参考書 坪井良子, 松田たみ子編: 考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2006				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(80%)、授業への参加状況(20%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥事前課題として VTR の視聴等がある。 本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰ及び、基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M015 看護基礎援助学Ⅲ (日常生活援助技術演習)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	野村亜由美、三輪聖恵、前田耕助、習田明裕	前期	水曜日 火曜日	4時限 4時限	
①授業方針・テーマ	①「日常生活に関する援助技術」の基本知識を踏まえ、演習科目として、模擬患者を対象にした援助技術を実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	② 看護基礎援助学Ⅱの知識を基盤として、基本的な「日常生活に関する援助」における技術・態度を習得する。 ・科学的根拠や安全性、効率性、効果的などの観点から、援助技術を見直すクリティカルシンキングの視点を身につける。				
③授業計画・内容	③第1回 感染予防を推進する援助技術Ⅰ(衛生的な手洗い) 第2回 環境を調整する(ベッドまわりの環境測定) 第3回 環境を調整する(ベッドメイキング①) 第4回 環境を調整する(ベッドメイキング②) 第5回 環境を調整する(リネン交換) 第6回 活動・運動する(ボディメカニクス:体位変換、床上の移動) 第7回 活動・運動する(ボディメカニクス:車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送) 第8回 身体の清潔を援助する技術(全身清拭) 第9回 身体の清潔を援助する技術(全身清拭と寝衣交換) 第10回 身体の清潔を援助する技術(手浴・足浴) 第11回 身体の清潔を援助する技術(洗髪) 第12回 食事・栄養摂取を促す技術(食事援助・口腔ケア) 第13回 排泄を促す技術(床上排泄) 第14回 排泄を促す技術(陰部洗浄、おむつ交換) 第15回 実技試験				
④テキスト・参考書	④教科書 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕編: ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学; 基礎看護技術, メディカ出版, 2016 参考書 坪井良子, 松田たみ子編: 考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2006				
⑤成績評価方法	⑤実技試験(80%)、演習への参加状況(20%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥演習時間以外に技術項目毎かなりの自己学習時間を要する。 クラス別で行うことがあるので、時間割に注意すること。 本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰ及び、基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M028 看護基礎援助学Ⅳ (ヘルスアセスメント論)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	習田 明裕、野村 亜由美	前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①人間の日常生活行動に関わる解剖学・生理学的なメカニズムの理解及びその観察技術(イグザミネーション)について学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本教科目は、健康な日常生活行動を支える身体的機能に関する情報収集手段として、問診・視診・触診・打診・聴診の意義について学び、健康逸脱の可能性のある対象者のアセスメントについて理解することが目的である。				
③授業計画・内容	③第1回 フィジカルアセスメント, バイタルサインの測定 第2回 皮膚・爪・髪/リンパ系のアセスメント 第3回 HEENT(Head, Eye, Ear, Nose and Throat)のアセスメント 第4回 肺(呼吸器系)のアセスメント 第5回 心臓・血管系のアセスメント 第6回 腹部(消化器)系のアセスメント 第7回 筋・骨格系のアセスメント 第8回 神経系のアセスメント				
④テキスト・参考書	④教科書 松尾ミヨ子, 志自岐康子, 城生弘美編: 基礎看護学; ヘルスアセスメント, メディカ出版, 2016 参考書 エレイン N. マリーブ: 人体の構造と機能第3版, 医学書院, 2010 古屋伸之編: 診察と手技がみえる Vol.1 第2版, メディックメディア, 2007				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(80%)、平常点:出席, 課題の提出状況(20%)				
⑥特記事項	⑥事前課題として VTR の視聴等がある。 本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M038 看護基礎援助学Ⅴ (ヘルスアセスメント演習)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	習田明裕、野村亜由美、三輪聖恵、前田耕助	後期	火曜日 木曜日	5時限 5時限	
①授業方針・テーマ	①人間の日常生活行動に関わる解剖学・生理学的なメカニズムの理解及びその観察技術(看護基礎援助学Ⅳで学んだ知識)を基盤として、看護の対象となる人の健康状態に焦点をあて、主観情報・客観情報を得るための観察視点や技術(問診・視診・触診・打診・聴診)、測定方法等のアセスメント能力を習得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本教科目は、健康な日常生活行動を支える身体的機能に関する情報収集手段として、問診・視診・触診・打診・聴診や各種診断器具を用いて観察・測定が行えることが目的である。これらのスキルが身につくことにより健康逸脱の可能性のある対象者のアセスメント方法を習得することができる。				
③授業計画・内容	③第1回 ガイダンスー問診・視診・打診・触診・聴診 第2回 バイタルサインの測定① 第3回 バイタルサインの測定② 第4回 肺(呼吸器系)のアセスメント 第5回 心臓・血管系のアセスメント 第6回 腹部(消化器系)のアセスメント 第7回 乳房のアセスメント 第8回 統合アセスメント演習 第9回 頭頸部/皮膚・爪・頭髪/リンパのアセスメント 第10回 HEENT(Head, Eye, Ear, Nose and Throat)のアセスメント① 第11回 HEENT(Head, Eye, Ear, Nose and Throat)のアセスメント② 第12回 筋・骨格系のアセスメント 第13回 神経系のアセスメント 第14回 フィジカルイグザミネーションチェック①第15回 フィジカルイグザミネーションチェック②				
④テキスト・参考書	④教科書 松尾ミヨ子, 志自岐康子, 城生弘美編:基礎看護学;ヘルスアセスメント, メディカ出版, 2016 参考書 エレイン N. マリーブ:人体の構造と機能第3版, 医学書院, 2010 古屋伸之編:診察と手技がみえる Vol.1 第2版, メディックメディア, 2007				
⑤成績評価方法	⑤技術チェック(80%)、出席・演習への参加状況・態度(20%)などを総合評価する。				
⑥特記事項	⑥事前課題としてVTRの視聴等がある。また時間以外に技術項目毎かなりの自己学習時間を要する。本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰ及び基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M054 看護基礎援助学Ⅵ (診療援助技術論)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	野村亜由美、三輪聖恵、前田耕助、習田明裕	後期	火曜日 木曜日	3時限 3時限	
①授業方針・テーマ	①看護者が提供する診療に関わる技術について、根拠および倫理的・法的側面を踏まえて、知識を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・ 侵襲性の高い治療・検査を受ける対象者を理解する。 ・ 科学的根拠に基づき確実かつ安全・安楽に看護技術を提供するための基本的知識(原理・原則)を習得する。				
③授業計画・内容	③第1回 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 第2回 感染予防を推進する技術Ⅱ(滅菌操作) 第3回 身体を保護・体温を調節する援助技術 第4回 呼吸・循環を楽にする技術 第5回 食事・栄養に関する援助の実際 第6回 排尿・排便の援助方法の選択 第7回 与薬のための援助技術				
④テキスト・参考書	④教科書 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕編:ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学;基礎看護技術, メディカ出版, 2016 参考書 坪井良子, 松田たみ子編:考える基礎看護技術Ⅱ第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2006 阿曾洋子, 井上智子, 氏家幸子:基礎看護技術第7版, 医学書院, 2005				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(80%)、授業への参加状況(20%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰ及び、基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M037 看護基礎援助学Ⅶ (診療援助技術演習)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	野村亜由美、三輪聖恵、前田耕助、習田明裕	後期		火曜日 木曜日	4時限 4時限
①授業方針・テーマ	①対象者に提供される「診療に伴う援助技術」について、その科学的根拠および理論的枠組みを踏まえて基礎的な知識を深める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	② 看護基礎援助学Ⅵの知識を基盤として、「治療や検査に伴う援助」における技術・態度を習得する。 ・科学的根拠や安全性、効率性、効果的などの観点から、援助技術を見直すクリティカルシンキングの視点を身につける。				
③授業計画・内容	③第1回 スタンダードプリコーション・医療安全・感染制御・リスクマネジメント 第2回 滅菌操作①(ガウンテクニック) 第3回 滅菌操作②(創傷処置・包帯法) 第4回 温罨法・冷罨法 第5回 吸引療法 第6回 酸素療法・噴霧療法 第7回 経管栄養の援助(経鼻胃カテーテル法) 第8回 浣腸法① 第9回 浣腸法② 第10回 導尿法① 第11回 導尿法② 第12回 静脈血採血法① 第13回 静脈血採血法② 第14回 皮下注射法と筋肉内注射 第15回 静脈内注射・輸液療法				
④テキスト・参考書	④教科書 志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕編: ナーシンググラフィカ⑩基礎看護学; 基礎看護技術, メディカ出版, 2016 参考書 坪井良子, 松田たみ子編: 考える基礎看護技術Ⅱ第3版、ヌーヴェルヒロカワ、2006 阿曾洋子, 井上智子, 氏家幸子: 基礎看護技術第7版、医学書院、2005				
⑤成績評価方法	⑤実技試験(80%)、演習への参加状況(20%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥演習時間以外に技術項目毎かなりの自己学習時間を要する。 クラス別で行うことがあるので、時間割に注意すること。 本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰ及び、基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M008 看護病態生理学(内科学)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	木下 正信、渡辺 尚彦 *	前期・前半		金曜日	3, 4時限
①授業方針・テーマ	①内科学は、臨床医学全般の裾野を形成する領域であり医学の中心的位置を占める。したがって、看護学を学習する学生にとっての共通項・中核となる臨床科目であり、疾病の根幹である病態生理まで掘り下げて講義を行う。さらに、医学と患者及びその家族の信頼関係の構築についても講義の中で話していく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②臨床医学的側面を基礎医学的知識(生理学・生化学)を用いて各臨床分野に応用し、その病態生理を把握させることを目標とする。				
③授業計画・内容	③項目 1 代謝学Ⅰ(メタボリック・シンドロームの診断基準) 項目 2 代謝学Ⅱ(メタボリック・シンドロームの病態) 項目 3 代謝学Ⅲ(糖尿病の基本的病態と糖尿病の合併症を中心に) 項目 4 腎臓病学Ⅰ(腎臓の生理学的機能を中心に) 項目 5 腎臓病学Ⅱ(慢性腎不全を中心に) 項目 6 呼吸器病学Ⅰ(肺の生理学的機能を中心に) 項目 7 呼吸器病学Ⅱ(慢性呼吸器疾患を中心に) 項目 8 循環器病学Ⅰ(狭心症) 項目 9 循環器病学Ⅱ(心筋梗塞) 項目 10 循環器病学Ⅲ(心不全) 項目 11 循環器病学Ⅳ(不整脈) 項目 12 肝臓病学Ⅰ(肝炎ウイルス) 項目 13 肝臓病学Ⅱ(肝硬変) 項目 14 内分泌病学 項目 15 血液病学				
④テキスト・参考書	④参考書:「内科学」杉本恒明、小俣政男 総編集 朝倉書店 講義の度に資料として、プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約10%)、受講態度(約10%)並びに単位認定試験(約80%)などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥授業計画・内容は、学生の理解度に合わせて時に変更する場合がある。循環器病学は、非常勤講師の循環器内科の先生にお願いするため、6月の3回の授業を火曜日1限目に行う(予定としては、6月3日、10日、17日)。				

科目名	M017 看護病態生理学 (神経内科学／小児科学)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	木下 正信、飯村 直子	前期・前半	木曜日	1,2時限	
①授業方針・テーマ	①神経内科学は神経・筋に由来する疾患であり、現在の在宅医療とも深いつながりを有している。難病と言われる病態も数多くあり、患者及びその家族の苦労を考慮しながら神経難病の苦しみを医療従事者を目指す学生に理解してもらえるように講義を進める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②神経解剖学の概要を把握させ、臨床神経病学の各疾病の病態生理を把握させることを目標とする。さらに、この科目の中に小児循環器、小児血液疾患の病態を正確に理解できることを目標とする。				
③授業計画・内容	③項目 1-3 脳血管障害(脳血栓、脳塞栓、クモ膜下出血) 項目 4 錐体外路性疾患Ⅰ(パーキンソン病の病態を中心に) 項目 5 小児循環器病学 項目 6 小児血液病学 項目 7 錐体外路性疾患Ⅱ(パーキンソン病の治療とパーキンソン病以外の疾患) 項目 8 脊髄性変性症(筋萎縮性側索硬化症を中心に)及び脊髄小脳変性症(遺伝性及び孤初性) 項目 9 末梢神経障害(ギランバレー症候群、フィッシャー症候群を中心に) 項目 10 神経筋接合部障害(重症筋無力症、ランバート・イートン筋無力症候群を中心に) 項目 11 筋疾患Ⅰ(筋ジストロフィー) 項目 12 筋疾患Ⅱ(筋緊張症、チャネロパチーを中心に) 項目 13 脱髄性疾患Ⅰ(多発性硬化症を中心に) 項目 14 脱髄性疾患Ⅱ(鑑別疾患としての HAM、SMONを中心に) 項目 15 中枢神経の感染症(髄膜炎、脳炎)神経生理学				
④テキスト・参考書	④参考書:「ベッドサイドの神経」田崎義昭著 講義の度に資料として、プリントを配布する。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況(約10%)、受講態度(約10%)並びに単位認定試験(約80%)などを総合し評価する。				
⑥特記事項	⑥小児循環器病学及び小児血液病学は、木曜日1時限に出来ないため時間を変更する場合がある。さらに、授業計画・内容は、学生の理解度に合わせて時に変更する場合がある。				

科目名	M022 看護病態生理学 (脳神経外科学／精神科学)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	繁田 雅弘、山村 礎	前期・前半	月曜日	4,5時限	
①授業方針・テーマ	①種々の精神障害の分類に関する考え方と障害が引き起こす症候について教授する。症状を列挙して整理するのではなく、できる限り、疾患の本質的な特徴を理解することを目指すとともに、生活への影響についての理解を目標とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②精神障害の学習に際して、疾患の症状を憶えるのではなく、各疾患を有する患者の姿ともいべき病態をまずイメージできるようにする。さらに、様々な生活上の変化や症状は単一の原因によって起こるものではなく、複数の要因が互いに影響しあった結果として生ずることを理解する。個々の症状を切り離してとらえるのではなく、総体的に病態を把握することを目指す。				
③授業計画・内容	③ 1. 精神障害をどのようにとらえるのか・どのように分類・整理されているか 2. 精神障害の理解をいかに精神科看護に生かすか(山村) 3. 神経症性障害の特徴と症候 4. ストレス関連障害と身体表現性障害の特徴と症候 5. 総合失調症とその関連疾患の特徴と症候(1) 6. 総合失調症とその関連疾患の特徴と症候(2) 7. 気分障害(躁病・うつ病)の特徴と症候(1) 8. 気分障害(躁病・うつ病)の特徴と症候(2) 9. 脳器質性精神障害の特徴と症候 10. 知的障害・発達障害の特徴と症候 11. 摂食障害・非器質性睡眠障害の特徴と症候 12. パーソナリティ障害の特徴と症候 13. その他の精神障害 14. 精神障害に対する薬物療法 15. まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:講義に先立って講義資料をプリントして持参すること。講義資料は Kibaco からダウンロードしておくこと。ダウンロードがうまくいかない場合は次のメールアドレスを通して連絡のこと。 sigeta@tmu.ac.jp 副読書:「看護のための精神医学」中井久夫・山口直彦著 医学書院				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験の得点率をもって評価する。出席状況は加味しない。				
⑥特記事項					

科目名	M030 看護病態生理学(外科学)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	黒井 克昌 *、渡辺 賢、西村 ユミ	前期・後半	月曜日	4,5 時限	
①授業方針・テーマ	①②将来、医療に携わる関係者として、外科系の患者を扱う際に必要な基本知識について概説する。幅広い外科学領域に係る総論・各論の講義を通して、外科学の基本的な知識と最新の情報を提供する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容	③1回:外科学の歴史と外科的思考 2回:外科学総論 3回:創傷治癒、褥創の予防と治療、及び皮膚移植 4回:麻酔学 5回:心臓・血管外科 6回:上部消化管外科 7回:下部消化管外科 8回:肝・胆・膵外科 9回:泌尿器科学 10回:呼吸器外科 11回:臨床腫瘍学及び乳腺・内分泌外科 12回:婦人科学 13回:脳神経外科 14回:救急医学 15回:まとめ・試験				
④テキスト・参考書	④教科書:特に指定しない。 参考書:標準外科学 第13版、医学書院 推薦図書:北村聖 総編集、臨床病態学1~3、ヌーベルヒロカワ				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験の結果等をもとに総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥多くの臨床医で分担して講義を行なうため、上記の講義スケジュールを変更する場合がある。				

科目名	M051 看護病態生理学(周産期学)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	園部 真美、木村 千里、楯 亜希子	後期・前半	火曜日	1 時限	
①授業方針・テーマ	①妊産婦の看護に必須の知識について、映像や模型を用いて講義する。基本的な専門用語については自己学習を提示し、それをもとに授業を展開する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②妊娠・分娩に伴う母体の生理的・心理的適応変化および胎児の発育について理解する。さらに、妊娠・分娩に伴う異常を理解し、予防的ケアの基礎について学ぶ。				
③授業計画・内容	③1:妊娠期のアセスメント 2:妊娠期のケア 3:妊婦の援助 4:分娩の生理 5:異常分娩 6:産婦のアセスメント 7:産婦のケア 8:まとめ 試験・解説				
④テキスト・参考書	④テキスト:母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護(新道幸恵他編集、メヂカルフレンド社) マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(新道幸恵他編集、メヂカルフレンド社) その他:講義時に提示する。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 100%で評価する。				
⑥特記事項	⑥本単位を未履修の場合、3年生後期の臨地看護学実践実習(母性)を履修できない。 関連科目:この科目を基礎として「成長発達看護学演習(母性)(3年・前期・必修)」につながる。				

科目名	M005 基礎看護学実習 I	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	習田 明裕、野村 亜由美、三輪 聖恵、 前田 耕助、*	後期	集中		
①授業方針・テーマ	①現在の医療の状況においては、思考力・実践力共に兼ね備えた人材育成が看護基礎教育の段階から求められている。医療の進歩に伴う看護実践能力を培うために、看護学の学内実習と時間をおかず臨地の場の体験を積むことにより、対象者に実施されている看護援助の根拠を学習する。同時に、実施されている看護援助が対象者にとってどのような意味をもつかについて学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②実習目的 健康上の問題を抱える個人との関わりを通して、対象者の体験を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。 実習目標 1. 対象者への積極的な関心を持ち、看護の対象としての個人を理解することができる。 2. 既習の知識・技術(コミュニケーション等)を活用し、対象者との援助的関係の基盤を形成することができる。 3. 対象者にとって安全かつ快適な療養環境について考え、環境調整のための援助を行うことができる。 4. 入院・治療が、対象者の日常生活におよぼす影響を理解し、その意味を考えることができる。 5. 対象者に提供される日常生活に関わる援助技術の意味を理解することができる。 6. 診療に関わる援助技術の見学(実習指導者と共に一部実施)することにより、対象者が必要とする援助の意味を理解することができる。 7. 実習での体験や学びを言語化するとともに、他者との意見交換をとおして、その意味を考えることができる。 8. 個人の尊厳および権利を尊重する態度について考え、それらに基づいた行動をとることができる。				
③授業計画・内容	③実習施設:東京都立駒込病院 実習方法: 1. 学内の講義・演習と可能な限り連動した形で実習する。 2. 実習一日を終了した時点で実習の評価・反省をし、次の実習での自己目標を考える。 3. 実習では、原則として1名の受け持ち対象者を定める。 4. 学内にて学習の振り返りを行い、学生間で学びを共有する。				
④テキスト・参考書	④特に定めない				
⑤成績評価方法	⑤1. 実習目的・実習目標の達成度(教員評価):80点 2. 課題レポート:20点 ※ 実習記録用紙の評価については、実習目的・実習目標の達成度に含まれる。				
⑥特記事項	⑥実習準備および学内演習でかなりの自己学習時間を要する。病院実習日程は変則的であるため、時間割には十分に留意する。本単位を履修しないと基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M006 基礎看護学実習Ⅱ	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	習田 明裕、野村 亜由美、三輪 聖恵、 前田 耕助、*		後期		集中
①授業方針・テーマ	①現在の医療の状況においては、思考力・実践力共に兼ね備えた人材育成が看護基礎教育の段階から求められている。医療の進歩に伴う看護実践能力を培うために、看護学の学内実習と時間をおかずに臨地の場の体験を積むことにより、対象者に実施されている看護援助の根拠を学習する。同時に、実施されている看護援助が対象者にとってどのような意味をもつかについて学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②実習目的 健康上の問題を抱える個人との関わりを通して、対象者の体験を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を養う。 実習目標 1. 対象者への積極的な関心を持ち、看護の対象としての個人を理解することができる。 2. 既習の知識・技術(コミュニケーション等)を活用し、対象者との援助的関係の基盤を形成することができる。 3. 対象者にとって安全かつ快適な療養環境について考え、環境調整のための援助を行うことができる。 4. 入院・治療が、対象者の日常生活におよぼす影響を理解し、その意味を考えることができる。 5. 対象者に提供される日常生活に関わる援助技術の意味を理解し、原理原則を踏まえて実施することができる。 6. 診療に関わる援助技術の見学(実習指導者と共に一部実施)することにより、対象者が必要とする援助の意味を理解することができる。 7. 看護過程の「情報収集」→「アセスメント」→「全体像の把握」→「看護上の問題の抽出」→「看護計画の立案」までを、看護のプロセスとして経験することができる。 8. 実習での体験や学びを言語化するとともに、他者との意見交換をとおして、その意味を考えることができる。 9. 個人の尊厳および権利を尊重する態度について考え、それらに基づいた行動をとることができる。				
③授業計画・内容	③実習施設:東京都立駒込病院 実習方法: 1. 学内の講義・演習と可能な限り連動した形で実習する。 2. 実習一日を終了した時点で実習の評価・反省をし、次の実習での自己目標を考える。 3. 実習では、原則として1名の受け持ち対象者を定める。 4. 基本的な看護過程、情報収集と全体像把握の段階を展開しながら、対象者にあつた援助について考え、実践、評価する。				
④テキスト・参考書	④特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤実習目的・実習目標の達成度(教員評価):100点 ※ 実習記録用紙の評価については、実習目的・実習目標の達成度に含まれる。				
⑥特記事項	⑥実習準備および学内演習でかなりの自己学習時間を要する。 病院実習日程は変則的であるため、時間割には十分に留意する。				

科目名	M024 実践基礎援助学(看護過程)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	西村 ユミ、野村 亜由美	前期・前半	火曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	①実践基礎援助学(看護過程演習)に繋がる科目として、「看護過程」の基本的な考え方を講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・看護実践における科学的な問題解決法を用いた思考過程(思考のプロセス)を理解する。 ・看護過程を支える理論的枠組みを理解する。 ・看護過程の概念と構成要素、展開方法を理解する。				
③授業計画・内容	③項目1:看護過程を始める前に①健康の概念、看護の目的 項目2:看護過程を始める前に②問題解決思考、中範囲理論、情報と記録 項目3:アセスメントする 項目4:全体像を把握する 項目5:看護上の問題を抽出する 項目6:看護計画を立案する、看護計画を実施する 項目7:ナーシングプロセスとしての看護過程を評価(修正)する 項目8:まとめ				
④テキスト・参考書	④テキストは設定せず、参考書を適宜紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤課題レポート(60%)、講義中に提出する課題及び出席点(40%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥本科目は実践基礎看護学(看護過程演習)と連動して講義を進めるため、必ず、両科目に出席すること。 本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰを履修することができない。				

科目名	M011 実践基礎援助学(看護過程演習)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	野村 亜由美、西村 ユミ	前期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	①実践基礎援助学(看護過程)の講義をふまえ、事例を用いた看護過程の展開の演習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人を全体論的にとらえる枠組みを用いて看護過程を展開し、看護実践基礎能力を養う。				
③授業計画・内容	③項目1:看護過程の展開(事例を用いた演習)1アセスメント 項目2:看護過程の展開(事例を用いた演習)2全体像 項目3:看護過程の展開(事例を用いた演習)3看護上の問題 項目4:看護過程の展開(事例を用いた演習)4ケアプラン 項目5:看護過程の展開(グループワーク)1 項目6:看護過程の展開(グループワーク)2 項目7:看護過程の展開(グループワーク)3 項目8:看護過程の展開(グループワーク)4 項目9:看護過程の展開(グループワーク)5 項目10:看護過程の展開(グループワーク)6 項目11:看護過程の展開(グループワーク)7 項目12:看護過程の展開(グループワーク)8 項目13:事例の看護過程の発表1 項目14:事例の看護過程の発表2 項目15:まとめ				
④テキスト・参考書	④参考書:志自岐康子・松尾ミヨ子編:ナーシンググラフィカ 18 基礎看護技術,メディカ出版,2016 Patricia W. Hickey 著 兼松百合子・数間恵子訳:看護過程ハンドブック,医学書院,2004 その他:講義内で適宜紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤グループ発表点(50%)、講義中に提出する課題及び出席点(50%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥本科目は実践基礎援助学(看護過程)と連動している。必ず両科目に出席すること。 演習には教員を複数配置する。積極的に指導を受けること。 本科目を履修しないと基礎看護学実習Ⅰを履修することができない。				

科目名	M056 実践基礎援助学 (急性期看護学概論)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	西村 ユミ、三浦 里織	後期・前半		水曜日	
①授業方針・テーマ	① 急性期・周手術期看護の概論について講義を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	② 急性期、周手術期にある患者およびその家族への援助の基本を学ぶことを目的とする。				
③授業計画・内容	③1:急性期看護の特徴 2:手術前の看護 3:手術中の看護 4:手術後の看護(1) 5:手術後の看護(2) 6:感染症と看護 7:急性期にある患者およびその家族の心理と看護 8:まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書:雄西智恵美他編集:周手術期看護論 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2014 参考書:池松裕子他編集:急性期看護論, ヌーヴェルヒロカワ, 2005 竹内登美子編著:講義から実習へ 周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護, 医歯薬出版株式会社, 2000				
⑤成績評価方法	⑤期末試験(80%)、講義中に提出する課題及び出席(20%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥本科目を履修しないと臨地看護学実践実習(成人慢性期)を履修することができない。				

科目名	M050 実践基礎援助学 (慢性期看護学概論)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	福井 里美、三浦 里織	後期・後半		水曜日	
①授業方針・テーマ	①慢性疾患の特徴とその生活への影響を概観し、看護の果たす役割について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②慢性・長期的疾患を持ちながら生活する人・家族の特徴を理解し、セルフケア能力を高め、最適な生活を過ごすことができるような援助の理論と方法について学ぶ。				
③授業計画・内容	③第1回 : 慢性期にある疾患と治療の特徴とその動向 第2回 : 慢性疾患の治療を受ける体験の理解 心理・社会的特徴 1 第3回 : 慢性疾患の治療を受ける体験の理解 心理・社会的特徴 2 第4回 : 慢性疾患患者と家族の問題 第5回 : 慢性期看護の特徴と援助方法 1 がん放射線化学療法を受ける患者への看護 第6回 : 慢性期看護の特徴と援助方法 2 症状の理解とマネジメント 第7回 : 慢性期看護の特徴と援助方法 3 長期にわたるセルフケア支援 第8回 : まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:鈴木志津枝・藤田佐和他編:成人看護学慢性期看護論 第3版, ヌーベルヒロカワ, 2014 参考書:宮下光令編:ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第2版, メディカ出版, 2016 他				
⑤成績評価方法	⑤試験 70%、出席および講義中に提示する課題 30%				
⑥特記事項	⑥本科目を履修しないと臨地看護学実践実習(成人慢性期)を履修することができない。				

科目名	M034 成長発達看護学(成人)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	西村 ユミ	前期・後半		金曜日	
①授業方針・テーマ	①成人期にみられる健康問題の特徴について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・成人期にある人を理解するために、発達課題からみた特徴ならびにライフサイクルからみた成人の身体的・精神的・社会的な特徴について理解する。 ・成人期の健康問題の特徴を理解する。 ・成人に対しての主体的な健康行動の支援について理解する。				
③授業計画・内容	③1:成人期にある人の理解 2:成人期にある人の成長発達の特徴 3:健康問題にかかわる諸理論(健康とQOL) 4:健康問題にかかわる諸理論(危機と対処) 5:健康問題にかかわる諸理論(ストレスとコーピング) 6:健康問題にかかわる諸理論(慢性的な健康状態のゆらぎ) 7:健康問題にかかわる諸理論(病い経験とその理解) 8:まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト: 指定しない				
⑤成績評価方法	⑤期末試験(80%)、講義中に提出する課題及び出席状況(20%)とし、総合得点で評価する。				
⑥特記事項	⑥本科目を履修しないと臨地看護学実践実習(成人慢性期)を履修することができない。				

科目名	M042 成長発達看護学演習(成人)	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	西村 ユミ、飯塚 哲子、福井 里美、 三浦 里織、新井 清美	後期		金曜日	
①授業方針・テーマ	①急性期看護および慢性期看護において、根拠に基づいた援助が実践できるよう、講義と演習を組み合わせた授業形式で進める。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②看護アセスメントに必要な基礎的能力の習得する。 症状の緩和、及び回復への援助に必要な実践的知識と技術の習得する。				
③授業計画・内容	③第1回 糖尿病患者の理解と看護① 第2回 糖尿病患者の理解と看護② 第3回 糖尿病患者の理解と看護③ 第4回 胃がんの治療を受ける患者の理解と看護① 第5回 胃がんの治療を受ける患者の理解と看護② 第6回 大腸がんの治療を受ける患者の理解と看護① 第7回 大腸がんの治療を受ける患者の理解と看護② 第8回 膵胆肝疾患患者の理解と看護① 第9回 膵胆肝疾患患者の理解と看護② 第10回 膵胆肝疾患患者の理解と看護③ 第11回 呼吸器疾患患者の理解と看護① 第12回 呼吸器疾患患者の理解と看護② 第13回 循環器疾患患者の理解と看護① 第14回 循環器疾患患者の理解と看護② 第15回 まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト: 雄西智恵美他編集:周手術期看護論 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2014 鈴木志津枝他編:慢性期看護論 第3版, ヌーベルヒロカワ, 2014 その他必要に応じて実践基礎援助学(急性期看護学概論)(慢性期看護学概論)で用いた参考書、講義資料を使用する。				
⑤成績評価方法	⑤期末試験 80%、出席および講義中に提示する課題 20%				
⑥特記事項	⑥本科目を履修しないと臨地看護学実践実習(成人慢性期)を履修することができない。				

科目名	M048 成長発達看護学(高齢者)	科目種別	看護・2年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	勝野 とわ子		後期・前半		月曜日
①授業方針・テーマ	①本講義では、高齢者看護学の基礎的な知識および高齢者看護実践における専門的な看護者の役割と機能を講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・自らの高齢者観を分析し高齢者に対する理解を深める。 ・高齢者看護学の対象者を成長と発達の過程、人口統計および社会構造の変化、災害時のニーズを通して理解する。 ・加齢に関連する諸概念と理論を理解することにより高齢者を身体的(生理的)・心理的・社会的側面から総合的にとらえ、対象者の健康レベルに合わせた効果的な看護を実施する基礎能力を養う。 ・高齢者への保健・医療・福祉サービスにおける専門職看護者の役割・機能および将来を考える。				
③授業計画・内容	③項目1:高齢者看護学ガイダンス、高齢者とは？ 項目2:成長と発達過程から見た老年期の意味とターミナルケア 項目3:高齢者とレミニッセンス 項目4:老化現象を説明する理論Ⅰ、Ⅱ 項目5:人口統計と社会構造の変化、災害からみた高齢者のニーズ 項目6:高齢者看護と倫理 項目7:高齢者保健医療福祉政策と高齢者看護の場 項目8:専門職看護者の役割および将来展望				
④テキスト・参考書	④テキスト:老年看護学概論 正木治恵、真田弘美編 南江堂 国民衛生の動向(平成28年版) 参考書:新版看護学全書30 老年看護学 鎌田 ケイ子編 メヂカルフレンド社 系統看護学講座専門20 老年看護学 中島紀恵子他 医学書院 Touhy, T.A. & Jett, K. F. (2011). Ebersole & Hess' toward healthy aging:: Human needs and nursing response (8th ed). St. Louis : Mosby. 高齢社会白書(平成27年版)総務庁編 大蔵省印刷局発行				
⑤成績評価方法	⑤課題ペーパー70%、出席状況20%、講義参加状況10%				
⑥特記事項	⑥オフィスアワーを1週間に1度設ける。 本科目を履修しないと高齢者領域の実習を履修することが出来ない。				

科目名	M057 成長発達看護学(小児)	科目種別	看護・2年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	飯村 直子、山本 美智代、種吉 啓子、 高嶋 希世子		後期		金曜日
①授業方針・テーマ	①子どもの成長・発達や子どもと家族の生活についての知識と小児看護の基礎となる考え方の習得を目指す。授業においては、子どもの身体的、精神的、社会的発達段階、子ども特有の症状と疾患、および健康状態の把握方法について教授する。なお、知識を確認するため、前回の授業内容について小テストを実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②子どもの成長・発達や子どもと家族の生活についての知識と小児看護の基礎となる考え方を学ぶ。そして、子どもが病気や障害をもつことによって生じる、子どもや家族の生活と環境の変化を知る。くわえて、高度化する医療や多様化する価値観のなかで、子どもの健康をどのように守っていくのかを学び、成長発達看護学演習(小児)の基盤とする。				
③授業計画・内容	③項目1:小児看護学が対象とする子どもと家族という存在 項目2:子どもの健康増進(認知、情緒、発達課題) 項目3:子どもの健康増進(ことば、あそび、社会性、コミュニケーション) 項目4:子どもの健康増進(栄養、排泄、睡眠、基本的生活習慣) 項目5:子どもの健康増進(子どもを取り巻く環境、事故) 項目6:子どもの健康増進(学校生活、生活習慣病) 項目7:子どもの健康状態を把握するためのフィジカルアセスメント 項目8:子どもによくみられる症状と看護(発熱、脱水、けいれん) 項目9:子どもにみられる症状と看護(呼吸困難、痛み、生命徴候が危険な症状) 項目10:心的障害を受けた子どもと家族への支援(災害時の支援を含む) 項目11:子どもの感染症と予防接種 項目12:検査や処置を受ける子どもへのプリパレーション 項目13:子どもの生活にあわせた支援(虐待を中心に) 項目14:病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護(在宅療養支援を含む) 項目15:慢性疾患のある子どもへの支援(糖尿病を中心に、外来看護を含む) 試験・解説				
④テキスト・参考書	④参考書 奈良間美保編(2015):系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第13版 医学書院 筒井真優美編(2014):小児看護学 第7版 日総研出版 中野綾美編(2014):小児の発達と看護 第5版 メディカ出版				
⑤成績評価方法	⑤定期試験(55%) 課題、小テスト(45%)				
⑥特記事項	⑥30分以内の遅刻があわせて2回みられた場合には、欠席1回とみなす。また、授業開始30分以上の遅刻については、授業への参加は認めるが欠席扱いとする。なお、6回以上欠席した場合には、定期試験の受験資格はなく、成績表示を「1」とする。				

科目名	M046 成長発達看護学(母性)	科目種別	看護・2年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	園部 真美、木村 千里、楯 亜希子	前期・後半		水曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	①女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルスに関する基礎的知識について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②妊娠・分娩・育児に関する看護援助を提供するために必要とされる基本的な考え方、および母子保健の動向とシステムについての理解を深める。また、妊娠期にある女性の健康に関する理解を深める。さらに、女性のライフサイクル全般の健康に注目して、家族や社会について考え、看護の対象理解につなげる。				
③授業計画・内容	③1:母性看護学の概念と役割 2:妊娠と母体の変化1 3:妊娠と母体の変化2 4:妊娠と母体の変化3 5:女性のライフサイクルと健康(思春期) 6:女性のライフサイクルと健康(更年期) 7:リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 8:母子保健・福祉の動向とシステム 9:試験・解説				
④テキスト・参考書	④テキスト:母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護(新道幸恵他編集、メヂカルフレンド社) マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(新道幸恵他編集、メヂカルフレンド社) 参考図書:講義時に提示する。				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験 100%で評価する。				
⑥特記事項	⑥本単位を未履修の場合、3年生後期の臨地看護学実践実習(母性)を履修できない。 *本講義を受講前には、「人間の起源と健康(1年・後期・必修)」の講義内容を復習しておくこと 関連科目:この科目を基礎とする「看護病態生理学(周産期学)(2年・後期・必修)」および「成長発達看護学演習(母性)(3年・前期・必修)」につながる。				

科目名	M012 精神看護学 I	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	山村 礎、廣川 聖子、川添 美花	後期		水曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	①本講義では、精神障害・疾患の特徴と精神看護を展開する上で必要となる知識と考え方を学ぶ。また、臨床で必要な対象との関係のとり方、コミュニケーションのとり方の理論的枠組みを学ぶ。主に講義を中心としてすすめる予定である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②精神看護領域における実習で行うことになる精神障害をお持ちの方々との実際の接触体験が精神看護の理解を深める最も大切な機会となる。この体験を意味あるものとするために、精神科領域で使われる用語や知識を各自で整理して、実習時に引き出せるように準備しておくことを到達目標とする。また、これらの用語などを適切に使用して、発言し、記述し、考えることができるようになることを到達目標とする。				
③授業計画・内容	③第1項目:精神看護が考える人間のこころ 第2項目:第3項目:こころが悲鳴をあげるとき-異常精神現象 第4項目:第5項目:人との関わりで心が痛むとき-心因性の障害- 第6項目:第7項目:心の痛みを症状とする疾患-精神病性の障害- 第8項目:第9項目:発達障害をもつ対象や小児にみられる障害の理解 第10項目:器質性障害をもつ対象の理解 第11項目:薬物依存・アルコール依存 第12項目:その他の精神科的問題についての理解 第13項目:精神看護の対象と方法 第14項目:精神科看護の歴史的変遷 第15項目:精神科看護の現状と今後				
④テキスト・参考書	④参考書:「看護のための精神医学」中井久夫、山口直彦著、医学書院				
⑤成績評価方法	⑤試験 80%、出席 20%				
⑥特記事項	⑥本科目は、看護師国家試験の必須科目である。 また、3年次の臨地看護学実践実習(精神)の履修のための必修科目である。				

科目名	M053 地域看護学 I	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	河原加代子、島田 恵、清水 準一	後期	木曜日		2 時限
①授業方針・テーマ	①域看護活動における主要な概念、個人・家族・コミュニティ(集団)へのアプローチの方法について講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本講は、公衆衛生の理念に基づいた公衆衛生看護と継続看護を柱とし、地域看護を地域を基盤にした包括的な看護サービスとして捉える。顕在あるいは潜在する地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の原理・原則、個人・家族・コミュニティ(集団)の生活と健康状態を評価し、問題を解決する基礎的な考え方や能力を学ぶ。また地域看護活動の対象と活動の場について具体的な事例をとおして理解する。				
③授業計画・内容	③授業計画・内容は次の通りである。 1:コース・オリエンテーション、地域看護活動の対象と活動の場[担当:河原] 2:病院から地域へー継続看護-[担当:清水] 3:さまざまな地域看護活動[担当:清水] 4:病院における地域看護ー外来看護-[担当:島田] 5:病院における地域看護ーHIV/エイズ患者のセルフマネジメント支援-[担当:島田] 6:対象把握の基本的な考え方と方法(1)システムのアプローチ(個人・家族)[担当:河原] 7:対象把握の基本的な考え方と方法(2)システムのアプローチ(コミュニティ)[担当:河原] 8:地域看護に携わる機関と職種、関係法規、地域での協働とネットワーク化[担当:乙黒] 9:地域包括支援センターの役割と機能[担当:乙黒] 10:地域看護活動における看護サービス(1):組織づくりと経営の基本的な考え方[担当:江畑] 11:地域看護活動における看護サービス(2):リーダーシップとエンパワーメント[担当:江畑] 12:対象把握の基本的な考え方と方法(3):システムのアプローチ「あなたの健康を守るシステム」[担当:河原] 13:学校における地域看護活動(1)養護教諭の役割[担当:遠藤] 14:学校における地域看護活動(2)地域との連携(事例)[担当:遠藤] 15:行政で働く保健師活動の実際[担当:持田保健師, 河原]				
④テキスト・参考書	④(テキスト) 杉本正子ほか(編):看護師教育のための地域看護概説ー公衆衛生看護を含む地域の看護に取り組むためにー,NOUVELLE HIROKAWA, 最新版 (参考書) ナーシング・グラフィカ18 基礎看護技術, メディカ出版, 最新版 (参考書) 系統看護学講座 在宅看護論, 医学書院, 最新版 (参考書) 国民衛生の動向, 厚生統計協会, 最新版 (参考書) 杉本正子・眞船拓子編:わかりやすい関係法規, NOUVELLE HIROKAWA, 最新版				
⑤成績評価方法	⑤演習レポート 50%, 課題レポート 50%, 受講態度及び演習への参加度等。				
⑥特記事項					

科目名	M014 薬理学	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	小口 江美子 *	前期	木曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	①本講義では薬物の体内動態を通じて薬物と生体との相互作用を学び、薬の主作用・副作用を理解した上で、薬と賢くつきあえること、チーム医療の一員の看護師として、患者への服薬指導、服薬中の患者ケアが安全に確実にできることをめざして講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 薬物療法の目的を説明できる。 2. 薬の剤型と与薬方法を説明できる。 3. 薬物の体内動態について説明できる。 4. 妊婦・乳幼児・小児へ与薬するときの注意事項を説明できる。 5. 高齢者へ与薬するときの注意事項を説明できる。 6. 薬の相互作用と有害作用について説明できる。 7. 患者への一般的な服薬指導ができる。 8. 末梢神経系の疾患に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 9. 中枢神経系の疾患に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 10. 循環器系の疾患に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 11. アレルギー・症状と炎症に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 12. 感染症に用いる薬物の作用と副作用を説明できる。 13. 消毒薬の使い方を説明できる。 14. 生活習慣病の成り立ちとその予防や治療法、セルフケアサポートについて説明できる。 15. がん治療や免疫治療における代表的な薬物の効果と副作用および患者サポートについて説明できる。 16. 呼吸器・消化器・生殖器に作用する代表的な薬物について説明できる。 17. 代表的な救急薬の働きについて説明できる。 18. 代表的な、外用薬・漢方薬・サプリメントの使い方を説明できる。				
③授業計画・内容	③第 1 回 4/7 薬理学概論その1;薬理学の概念、治療における薬物療法の重要性と薬理作用 第 2 回 4/14 薬理学概論その2;薬の適用と体内での動き、薬効および有害作用 第 3 回 4/21 薬理学概論その3;看護と医薬品、各種製剤と処方箋他 第 4 回 4/28 末梢神経系に作用する薬物 第 5 回 5/12 中枢神経系に作用する薬物 第 6 回 5/19 心臓・血管系に作用する薬物 第 7 回 5/26 抗アレルギー薬・抗炎症薬 第 8 回 6/2 抗感染症薬・消毒薬 第 9 回 6/9 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 第 10 回 6/16 物質代謝に作用する薬物 第 11 回 6/23 抗がん薬・免疫治療薬 第 12 回 6/30 救急薬・外用薬 第 13 回 7/7 漢方薬・サプリメント・輸液 第 14 回 7/14 生活習慣病の予防と治療におけるチーム医療(患者のセルフケアサポート) 第 15 回 7/21 これまでの復習とまとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:「系統看護学講座 専門基礎3 薬理学」大鹿英世 医学書院 参考書:「わかりやすい薬理学」安原一、小口勝司 ノーヴェルヒロカワ 「臨床に生かしたいくすりの話」中原保裕 学研				
⑤成績評価方法	⑤記述試験より評価する(前期試験実施期間)				
⑥特記事項	⑥教務科連絡用メールアドレス:eoguchi@nr.showa-u.ac.jp				

科目名	M306 家族発達看護学	科目種別	看護・2年・必修	単位数	1
担当教員	島田 恵		後期・前半		水曜日
①授業方針・テーマ	①家族をシステムとして捉え、家族の発達課題・機能、家族成員の相互関係をもとに家族の健康問題をアセスメントし、看護援助のあり方について学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 家族をシステムとして捉え、家族の発達課題・機能、家族成員の相互関係について理解することができる。 2. 1.をもとに家族の健康問題をアセスメントし、看護援助のあり方について検討することができる。				
③授業計画・内容	③1. コースオリエンテーション・「家族」について考える 2. 「家族」を看護するということ 3. 家族看護過程の展開:解説1 4. 家族看護過程の展開:解説2 5. 家族看護過程の展開:ワーク1 6. 家族看護過程の展開:ワーク2 7. DVD「私が自宅で生きているということ」 8. 家族看護における看護職の役割・まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト:「家族看護学 理論と実践(第4版)」鈴木和子他著 日本看護協会出版会 参考書:「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第4版」河原加代子著 医学書院				
⑤成績評価方法	⑤・各講義はテキストを事前学習している前提で進める。そのため、各講義の最後に次回講義までに学習しておく課題を提示するので注意すること。 ・試験は行わず、課題提出物(70%)、講義・ワークへの参加状況(発言等)(30%)により、総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥家族発達看護学の単位未取得者は、臨地看護学実践実習(在宅)は履修できない。				

科目名	M045 ヘルスプロモーション看護論	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	清水 準一、飯塚 哲子、吉田 和樹		後期		月曜日
①授業方針・テーマ	①近年の疾病構造の変化に伴い、患者・住民自身のセルフケア能力を高めるような教育介入の必要性が高まっている。これまでの「指導」的な教育方法だけでなく、「学習支援」的な教育方法が必要とされたり、個人・集団を対象とした教育的介入のみならず、支援的環境や政策的な関わりが健康に与える影響も重要視されてきており、これらを基礎から体系的に学ぶと共に、演習を通して具体的な教育方法についても学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②健康教育やヘルスプロモーションに関連した講義や演習を通して、看護職における教育的な役割の理解や健康教育を実施する技術や能力を獲得する。				
③授業計画・内容	③1:健康教育・ヘルスプロモーションと看護 2:健康教育における主要な概念と理論①(教育者-学習者関係) 3:健康教育における主要な概念と理論②(健康や保健行動に関わる理論) 4:健康教育におけるコミュニケーション 5:健康教育プログラム①(教育の方法) 6:健康教育プログラム②(アセスメントと計画の立案) 7:病院における患者教育 ① 8:病院における患者教育 ② 9:地域における健康教育プログラムの作成 ① 10:地域における健康教育プログラムの作成 ② 11:行政における健康教育の展開方法を学ぶ ① 12:行政における健康教育の展開方法を学ぶ ② 13:行政における健康教育の展開方法を学ぶ ③ 14:プログラムに沿った健康教育の実施(発表) 15:健康教育の評価と質を高めるための活動				
④テキスト・参考書	④教科書:中村裕美子(編著):標準保健師講座2 地域看護技術(第2版)、医学書院 参考書:日本健康教育学会(編):健康教育-ヘルスプロモーションの展開、保健同人社				
⑤成績評価方法	⑤評価は期末試験(清水と飯塚担当分:全体の60%)、残りは演習への参加、課題の提出などにより行う。				
⑥特記事項					

科目名	M036 看護疫学	科目種別	看護・2年・必修	単位数	2
担当教員	猫田 泰敏	後期	火曜日		2時限
①授業方針・テーマ	①根拠に基づいた看護を提供するためには、文献や研究成果を批判的に吟味し自らの実践に活用できること、実施したケアを評価できることは、臨床・地域を問わず看護職にとっての不可欠な資質であろう。これらのためには看護疫学に関する知識と理解が中心となる。本講義では、疫学の看護への応用を一義とした看護疫学について系統的に講義する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②看護疫学の目的と内容について理解できる。看護疫学はケアに必要なエビデンスを作る一分野であることが理解できる。集団を把握するための主要な概念を説明できる。アウトカムの測定指標について説明できる。要因とアウトカムの関係について説明できる。因果関係の判断について説明できる。看護疫学の研究デザインについて理解できる。偏りと交絡、交絡の調整について理解できる。スクリーニングについて理解できる。これらの学習を通じて疫学的思考能力が身につく。				
③授業計画・内容	③第1～2回：看護疫学の定義と内容 第3～5回：アウトカムの測定指標 第6回：要因とアウトカムの因果関係の判断 第7回：記述的研究デザイン 第8～9回：分析的研究デザイン 第10回：要因の効果に関する指標 第11回：偏りと交絡の相違 第12回：交絡の調整 第13回：実験的研究デザイン 第14回：研究デザインの整理 第15回：スクリーニング 第16回：試験				
④テキスト・参考書	④テキスト：無し。講義資料を配付する。 参考書：「基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版」中村好一著、医学書院。				
⑤成績評価方法	⑤期末試験（100%）				
⑥特記事項	⑥受講者の主体的な学習態度を期待する。				

科目名	M604 学校保健	科目種別	看護・2年 養護教諭課程必修	単位数	2
担当教員	竹下 智美 *	夏季集中			
①授業方針・テーマ	①学校保健の目的・意義を理解し、養護活動を行うにあたり必要な知識や技術を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②学校保健の意義や構造、制度、関係法規について説明でき、学校保健にかかわる組織、関係機関、関係職員の役割を理解し、養護教諭との協働について説明できる。				
③授業計画・内容	③第1回：ガイダンス 第2回：学校保健概説Ⅰ（歴史の変遷・意義・関連法規） 第3回：学校保健概説Ⅱ（領域構造） 第4回：児童生徒の発育発達と健康課題 第5回：学校保健計画—法的根拠と意義・内容 第6回：健康観察の意義と養護診断 第7回：健康診断の意義と方法1 第8回：健康診断の意義と方法2 第9回：感染症予防の意義と方法 第10回：学校における救急処置活動の意義と実際 第11回：学校環境衛生の法的根拠と学校環境衛生検査の実際 第12回：学校健康相談活動（学校医・学校歯科医・養護教諭の行う健康相談内容） 第13回：学校安全計画・危機管理（児童生徒の災害の実態・安全教育等） 第14回：学校保健組織活動の意義及び組織（教職員・児童生徒・地域） 第15回：まとめ（学校保健の今日的課題）＋試験				
④テキスト・参考書	④テキスト 衛藤隆・岡田加奈子編集：学校保健マニュアル【改訂 8 版】、南山堂、2010 年				
⑤成績評価方法	⑤小テスト（50 点）、レポート（50 点）による。				
⑥特記事項					

科目名	M603 生徒指導	科目種別	看護・2年 養護教諭課程必修	単位数	2
担当教員	篠崎 純子 *	前期		金曜日	1 時限
①授業方針・テーマ	①・子どもの現状について考察し、指導の課題を明らかにする。 ・児童期や思春期の発達について学び、一人ひとりの子どもの理解を深める方法を習得する。 ・社会の形成者として、主体的に生きる力を育てる教育実践を創造していく。 【テーマ】 子どもの生きる力を育む生徒指導のあり方を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・今を生きる子どもたちの生きづらさについて考えることができる。 ・実践を分析し、子どもの発達の立場から意見が述べられる。 ・子どもの「いきづらさ」「成長の可能性」に関心を持ち、適切な指導について考えあうことができる。 ・子どもたちへのよりよい指導とは何かを考察し、実践をイメージした意見が述べられる。				
③授業計画・内容	③【内容】 教育の実践的な基礎知識と理論を理解していく。さらに、実践記録や演習を題材にして、子どもの発達を保障する教育のあり方を考えていく。 【計画】 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 生徒指導の意義と課題 第 3 回 児童期・思春期の子どもの特徴と課題 第 4 回 生きづらさを抱える子どもたち① 第 5 回 生きづらさを抱える子どもたち② 第 6 回 子どもとの信頼関係をどうつくるか 第 7 回 特別なニーズをもつ子どもたち① 第 8 回 特別なニーズをもつ子どもたち② 第 9 回 いじめ・虐待をどう捉え、どう指導するか 第 10 回 不登校の子ども指導 第 11 回 荒れる学級の指導 第 12 回 授業と生徒指導① 第 13 回 授業と生徒指導② 第 14 回 保護者と同僚との共同 第 15 回 まとめ				
④テキスト・参考書	④【テキスト】 授業シートを配布 【参考書】 ・学習指導要領 「がちやがちクラスをガラッとかえる」・「ねえ教えてパニックのわけを」 ・「困らせたっていいんだよ甘えたっていいんだよ」・生活指導誌等				
⑤成績評価方法	⑤・出席は 3 分の 2 を必要とする ・試験・・・50 パーセント ・授業振り返りシート(出席票を兼ねる)・・・50 パーセント				
⑥特記事項	⑥・主に教育現場の状況や実践記録をベースにして授業を行います。授業シートはよく整理しておいでください。 ・学習課題が出た時は、提出期限を厳守してください。 ・参加型授業を目指しますので、積極的・主体的な参加を求めます。 ・学習状況から、学習計画を変更することもあります。その時には事前に連絡をいたします。				

科目名	M605 養護概論	科目種別	看護・2年 養護教諭課程必修	単位数	2
担当教員	中下 富子 *	後期		水曜日	5 時限
①授業方針・テーマ	①学校保健の講義での学習内容を基盤として、養護教諭の職務に関して、歴史的な変遷、及び具体的な職務内容について教授する。主に講義とするが、課題発表も課す。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②養護の概念や養護教諭の機能・役割への知識、理解を深め、養護実践に必要な企画力、実行力、調整能力等の資質を培うことができる。課題発表を通して、教師としての指導力を養うことができる。				
③授業計画・内容	③第 1 回:ガイダンス、学校保健の機能 第 2 回:養護教諭の職務の変遷Ⅰ 第 3 回:養護教諭の職務の変遷Ⅱ 第 4 回:保健室経営Ⅰ—保健室の機能— 第 5 回:保健室経営Ⅱ—保健室経営計画— 第 6 回:健康観察—健康観察の方法と問題への対応— 第 7 回:健康診断Ⅰ—健康診断の進め方— 第 8 回:健康診断Ⅱ—健康診断の事後措置— 第 9 回:保健教育Ⅰ—保健学習と保健指導— 第 10 回:保健教育Ⅱ—テーマに基づいた保健指導の発表— 第 11 回:疾病予防—感染症予防及び疾病の学校生活管理指導— 第 12 回:救急処置—傷病に対するヘルスアセスメントの方法— 第 13 回:健康相談—養護教諭が行う健康相談の進め方— 第 14 回:保健組織活動—児童生徒保健委員会と学校保健委員会— 第 15 回:まとめ+試験				
④テキスト・参考書	④学校保健・安全実務研究会編:新訂版 学校保健実務必携 第3次改訂版 第一法規 平成 26 年 文部科学省:小学校学習指導要領 平成 20 年3月告示 文部科学省:中学校学習指導要領 平成 20 年3月告示				
⑤成績評価方法	⑤期末試験(50%)、課題発表(30%)、レポート(20%)				
⑥特記事項	⑥養護教諭課程 必修科目 オフィスアワー:授業終了後 連絡先: tonakasi@mail.saitama-u.ac.jp				

科目名	M007 実践基礎援助学 (急性期看護学各論)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	福井 里美、飯塚 哲子、三浦 里織、 新井 清美、西村 ユミ	前期		月曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	①成人期の代表的な急性期疾患とその看護について講義と演習を交えて行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②急性期疾患に特徴的な侵襲による生体反応を理解し、実践基礎援助学(急性期看護学概論)・成長発達看護学演習(成人)で習得した知識・技術に基づいて、様々な急性期にある患者の看護について学ぶ。 看護過程の展開や看護計画の実施に必要な看護技術を習得することにより、臨床看護の基礎となる実践能力を養う。				
③授業計画・内容	③第1回 整形外科疾患患者の看護① 第2回 整形外科疾患患者の看護② 第3回 整形外科疾患患者の看護(事例) 第4回 整形外科疾患患者の看護(まとめ) 第5回 脳血管障害患者の理解と看護 第6回 脳神経外科手術を受ける患者の看護 第7回 脳神経疾患患者の看護(事例) 第8回 脳神経疾患患者の看護(まとめ) 第9回 生殖器疾患患者の看護 第10回 乳がん患者の看護 第11回 実習記録を用いた事例展開① 第12回 ストーマ造設術を受ける患者の看護 第13回 救命救急看護① 第14回 救命救急看護② 第15回 手術後の観察(技術演習) 第16回 まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト：雄西智恵美他編集：周手術期看護論 第3版、ヌーヴェルヒロカワ、2014 鈴木志津枝・藤田佐和他編：成人看護学慢性期看護論 第3版、ヌーベルヒロカワ、2014 参考書：池松裕子他編集：急性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2005 宮下光令編：ナースング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第2版、メディカ出版、2016 他				
⑤成績評価方法	⑤科目試験 70%、技術試験 10%、出席および講義中に提示する課題 20%				
⑥特記事項	⑥本科目を修得しないと、臨地看護学実践実習(成人慢性期)は履修できない。				

科目名	M009 実践基礎援助学 (慢性期看護学各論)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	飯塚 哲子、福井 里美、三浦 里織、 新井 清美、清水 準一、西村 ユミ	前期		木曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	①成人期の代表的な慢性期疾患とその看護について講義と演習を交えて行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②慢性期疾患とその治療の特徴を理解し、実践基礎援助学(慢性期看護学概論)・成長発達看護学演習(成人)で習得した知識・技術に基づいて、慢性期にある患者とその家族の看護について学ぶ。				
③授業計画・内容	③第1回 腎不全患者の看護① 第2回 腎不全患者の看護② 第3回 神経・筋疾患患者の看護 第4回 自己免疫疾患患者の看護① 第5回 自己免疫疾患患者の看護② 第6回 血液・造血器疾患患者の看護① 第7回 血液・造血器疾患患者の看護② 第8回 血液・自己免疫疾患患者の看護(事例) 第9回 血液・自己免疫疾患患者の看護(まとめ) 第10回 慢性呼吸器疾患患者の看護 第11回 実習記録用紙を用いた事例展開② 第12回 実習記録用紙を用いた事例展開③ 第13回 実習記録用紙を用いた事例展開④ 第14回 事例を用いた看護展開⑤(発表) 第15回 まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト：雄西智恵美他編集：周手術期看護論 第3版、ヌーヴェルヒロカワ、2014 鈴木志津枝・藤田佐和他編：成人看護学慢性期看護論 第3版、ヌーベルヒロカワ、2014 参考書：池松裕子他編集：急性期看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2005 宮下光令編：ナースング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第2版、メディカ出版、2016 他				
⑤成績評価方法	⑤期末試験80%(記録用紙を用いた事例展開の内容を含む)、出席および講義中に提示する課題 20%				
⑥特記事項	⑥本科目を修得しないと、臨地看護学実践実習(成人慢性期)は履修できない。				

科目名	M010 公衆衛生学	科目種別	看護・3年・必修	単位数	2
担当教員	猫田 泰敏	前期		火曜日	2時限
①授業方針・テーマ	①看護学の基盤分野の一つである公衆衛生学について系統的に講義する。なお、保健師助産師看護師法の第一条には「この法律は、保健師、助産師及び看護師の資質を向上し、もって医療及び公衆衛生の普及向上を図ることを目的とする」とあり、看護職には公衆衛生への寄与が求められていることを常に念頭においてほしい。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②公衆衛生学は人間集団の健康生活を支える予防的な活動分野であること、人々の健康・生活状態に対応して常に発展しつつあることが理解できる。主要な活動内容について理解できる。集団の健康について普段から意識する態度が身につく。				
③授業計画・内容	③第1回：公衆衛生学の概念 第2回：公衆衛生制度の概略 第3～4回：健康指標 第5～6回：感染症の予防 第7回：健康づくり対策 第8～9回：生活習慣病の予防 第10回：母子保健 第11回：老人保健 第12回：第6回：食の安全 第13回：公衆衛生と医療 第14回：日常生活の環境 第15回：環境保全 第16回：試験				
④テキスト・参考書	④テキスト：無し。講義資料を配付する。 参考書：「シンプル衛生公衆衛生学 2015」南江堂。				
⑤成績評価方法	⑤期末試験(100%)				
⑥特記事項	⑥受講者の主体的な学習態度を期待する。				

科目名	M019 在宅看護学	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	清水 準一、島田 恵、戸村 ひかり	前期・前半		金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	①療養者とその家族にとっての「生活の場」で行われている在宅看護の特徴を主に講義を通じて理解し、その基礎的知識を学習すると共に、適切な看護を提供できる基礎的能力を養う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 地域で生活している人々の視点を持ち、在宅看護の特徴を理解する。 2. 在宅看護の歴史と制度、訪問看護のプロセスを理解する。 3. 在宅療養を支援する3つの視点(訪問看護、退院支援、外来支援)を理解する。 4. 在宅看護過程の展開を学習する。				
③授業計画・内容	③1 在宅看護の目的と特徴 2 在宅看護の歴史と制度 3 訪問看護活動のプロセス 4 在宅看護過程の展開(1) 5 在宅看護過程の展開(2) 6 在宅看護を支援する院内看護活動(1)外来看護・相談支援 7 在宅看護を支援する院内看護活動(2)退院支援 8 まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書：河原加代子代表著「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第4版」医学書院 参考書：数間恵子編「外来看護パーフェクトガイド」看護の科学社 全国訪問看護事業協会監修「ナースのための退院調整-院内チームと地域連携のシステムづくり(第2版)」日本看護協会出版会				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(80%)、小テスト・課題等(20%)				
⑥特記事項	⑥在宅看護学の単位未得者は、臨地看護学実践実習(在宅)は履修できない。				

科目名	M243 在宅看護学演習	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	清水 準一、島田 恵、戸村 ひかり	前期・後半	金曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①在宅看護の特徴を踏まえた上で、在宅看護の提供者と利用者・家族への理解を深め、演習を通じて看護の提供に必要な実践的な看護技術や知識を獲得する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 在宅看護の展開に必要な視点を獲得する。 2. 在宅看護で必要となる看護技術や安全の確保に必要な知識を獲得する。 3. 在宅看護の様々な対象とその看護の方法を理解する。 4. 訪問看護を継続的に提供するための方策を理解する。				
③授業計画・内容	③1 訪問看護の実際 2 在宅介護の実際 3 演習1 性のネットワーク化演習、在宅看護における感染予防 4 在宅における医療処置と安全管理 5 在宅における呼吸管理看護と QOL 6 演習2 在宅看護技術 -医療処置(排泄)-1 7 演習2 在宅看護技術 -医療処置(排泄)-2 8 演習3 在宅看護技術 -医療処置(呼吸)-1 9 演習3 在宅看護技術 -医療処置(呼吸)-2 10 演習4 在宅看護技術 -医療処置(点滴、呼吸リハ、コミュニケーション支援)-1 11 演習4 在宅看護技術 -医療処置(点滴、呼吸リハ、コミュニケーション支援)- 2 12 在宅における看護過程の展開(1):高齢者・精神 13 在宅における看護過程の展開(2):がん緩和ケア 14 演習5 訪問看護のロールプレイ 15 訪問看護管理、実習オリエンテーション				
④テキスト・参考書	④教科書:河原加代子代表著「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第4版」医学書院				
⑤成績評価方法	⑤演習への参加・実施状況(60%)、課題レポートの提出(40%)				
⑥特記事項	⑥在宅看護学演習の単位未得者は、臨地看護学実践実習(在宅)は履修できない。				

科目名	M016 成長発達看護学演習(小児)	科目種別	看護・3年・必修 クラス指定	単位数	1
担当教員	種吉 啓子、飯村 直子、山本 美智代、 高嶋 希世子	前期	水曜日		3 時限
①授業方針・テーマ	①さまざまな健康レベルにある子どもとその家族の状況を適切に査定し、援助をおこなうための基礎的な知識と援助技術の習得を目指す。授業においては、疾患の知識の習得、事例におけるアセスメントの実施、看護過程の展開を中心に行う。そのために、課題を課すとともに、前回の授業内容について小テストを実施する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②さまざまな健康レベルにある子どもとその家族の状況を適切に査定し、援助をおこなうための基礎的な知識・援助技術を習得する。そのために、子どもが病気や障害をもつことによつてどのような影響を受け、子どもと家族がその状況にどう適応しようとするのかを理解する。さらに、基礎的な援助技術を看護実践にどのように応用するのかを学ぶ。				
③授業計画・内容	③項目 1:小児看護学領域におけるアセスメントとは 項目 2:急性症状のある子どもと家族 項目 3:ハイリスク新生児と家族 項目 4:心身障害のある子どもの治療・診断 項目 5:心身障害のある子どもと家族(施策を含む) 項目 6:腎疾患のある子どもの治療 項目 7:救急救命処置が必要な子どもと家族 項目 8:先天的疾患のある子どもと家族(循環器疾患) 項目 9:周手術期にある子どもと家族 項目 10:悪性疾患のある子どもの治療 項目 11:終末期にある子どもと家族 項目 12:赤ちゃん先生から学ぼう 項目 13:小児看護学における実習前演習-アセスメント- 項目 14:小児看護学における実習前演習-看護計画立案- 項目 15:小児看護学における実習前技術演習 試験				
④テキスト・参考書	④参考書:奈良間美保編(2015):系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論第13版 医学書院 筒井真優美編(2014):小児看護学 第7版日総研 中野綾美編(2015):小児の発達と看護 第5版メディカ出版				
⑤成績評価方法	⑤定期試験(55%) 課題、小テスト(45%)				
⑥特記事項	⑥30分以内の遅刻があわせて2回みられた場合には、欠席1回とみなす。また、授業開始30分以上の遅刻については、授業への参加は認めるが欠席扱いとする。なお、6回以上欠席した場合には、定期試験の受験資格はなく、成績表示を「1」とする。また、本科目は成長発達看護学(小児)の授業内容を基盤としていることから、成長発達看護学(小児)の履修をしたのちに授業資料を参照しながら受講すると理解の促進につながると思われる。				

科目名	M025 成長発達看護学演習(母性)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	園部 真美、木村 千里、楯 亜希子	前期・前半	火曜日	3,4時限	
①授業方針・テーマ	①妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理社会的変化について理解し、母子がこれらの変化に適応して、健康で快適な生活を送ることができるように、また、満足な体験となるように、家族を含めた看護援助を行うための基礎知識と技術・態度を養う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理社会的変化について理解でき、母子に対する基本的な看護技術を修得する。また、産褥期および新生児期の母子に対する看護援助の必要性を明らかにしたうえで看護過程に基づいた援助を考えることができる。				
③授業計画・内容	③ 1:産褥の生理 2:産褥の観察とアセスメント 3:出生直後の新生児の観察 4:新生児の生理 5:新生児の観察とアセスメント 6:新生児の生活支援 1 7:新生児の生活支援 2 8:産褥生活支援 9:母乳栄養の支援 1 10:母乳栄養の支援 2 11:母性看護技術 12~15:母性看護技術演習 16:試験・解説				
④テキスト・参考書	④テキスト:母性看護学概論ウイメンズヘルスと看護(新道幸恵他編集、メヂカルフレンド社) マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(新道幸恵他編集、メヂカルフレンド社) 「写真でわかる母性看護技術」(平澤美恵子他監修・インターメディカ)				
⑤成績評価方法	⑤試験 80 点、事例課題レポート 20 点				
⑥特記事項	⑥本単位を未履修の場合、3年後期の臨地看護学実践実習(母性)を履修できない。 関連科目:「成長発達看護学(母性)(2年・後期・必修)」および「看護病態生理学(周産期学)」				

科目名	M031 成長発達看護学演習(高齢者)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	増谷 順子、勝野 とわ子	前期・後半	火曜日	3,4時限	
①授業方針・テーマ	①さまざまな健康状態にある高齢者の看護をどのように実践するのか、演習をとおして高齢者の特徴を生かした看護実践の基本を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②人間の加齢に伴う生理・心理・社会的変化を理解し、高齢者への健康問題の多様化に応じた看護を提供する能力を養う。また、高齢者に対するヘルスアセスメント技術および健康援助技術を理解し、効果的に看護を展開する能力を養う。				
③授業計画・内容	③項目 1:高齢者を対象とした看護の目標 項目 2:加齢に伴う健康問題—身体的・心理的・社会的特徴 項目 3:高齢者のヘルスアセスメントⅠ 項目 4:高齢者のヘルスアセスメントⅡ 項目 5:高齢者の食事に関する健康問題と看護Ⅰ 項目 6:高齢者の食事に関する健康問題と看護Ⅱ 項目 7:高齢者の排泄・清潔に関する健康問題と看護 項目 8:高齢者の活動・休息に関する健康問題と看護 項目 9:高齢者の看護過程Ⅰ 項目 10:高齢者の看護過程Ⅱ 項目 11:高齢者の生活環境・転倒に関する健康問題と看護 項目 12:高齢者の外科的治療と薬物療法に関する看護 項目 13:認知症をもつ高齢者へのケア 項目 14:認知症をもつ高齢者へのケアと入所施設 項目 15:施設における看護活動と支援システム 項目 16:試験				
④テキスト・参考書	④テキスト:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、老年看護学病態・疾患論				
⑤成績評価方法	⑤レポート 10%、試験による総合評価 90%、他、出席状況				
⑥特記事項					

科目名	M021 看護研究	科目種別	看護・3年・必修	単位数	2
担当教員	飯村直子、山村礎、西村ユミ、斉藤恵美子、 習田明裕、清水準一、山本美智代、 高嶋希世子、前田耕助	前期	月曜日 金曜日		3・4 時限 2 時限
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①②あらゆる看護の場面において、質の高い看護を提供するにあたり、研究は重要かつ不可欠な役割を担っている。ここではまず看護における研究の意義を学び、その上で具体的な研究方法の基礎として、質問紙の作成や統計解析、観察法、面接法の基礎的理解や質的な分析方法の実際を学ぶことを通じて看護研究への理解を深める。</p> <p>③講義日：4月～7月、1週間に2回程度、講義(1コマ)と演習(2コマ)を組み合わせで行う。 項目 1:看護研究とは(研究と看護、研究のプロセス、倫理的問題) 項目 2:看護研究における主要概念(課題の設定、文献検索、概念枠組み) 項目 3・4:量的研究の基礎1、2(因果仮説、介入研究の枠組み、調査票の作成) 項目 5・6・7:量的研究の実際1、2(因果仮説及び変数の検討、調査票の記入・入力) 項目 8・9:量的研究の基礎3、実際3(記述統計の提示、EXCEL、SPSS による記述統計) 項目 10・11:量的研究の基礎4、実際4(仮説検定の提示、SPSS による仮説検定) 項目 12・13:量的研究の実際5(プレゼン資料作成) 項目 14・15:量的研究の実際6(グループ発表) 項目 16:量的研究の実際7(まとめ、レポート作成) 項目 17:質的研究の基礎1(質的研究のプロセス) 項目 18・19:質的研究の基礎2、実際1(質的データの収集、インタビュー方法) 項目 20・21・22:質的研究の実際2、3(質的データの収集、観察法、グループ発表) 項目 23・24:質的研究の基礎3、実際4(概念の把握) 項目 25:質的研究の実際5(概念の把握、グループ発表) 項目 26:質的研究の基礎4(エスノグラフィー) 項目 27・28:質的研究の基礎5(現象学) 項目 29:研究課題と方法の検討 項目 30:研究のまとめ方・発表方法 * 3回以降は課題が出されることがあるので、授業中の指示に従うこと。</p> <p>④参考書 南裕子 他 編:看護における研究 日本看護協会出版会 第1版6刷 戈木クレイグヒル滋子:質的研究法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ 第2版 医学書院 佐藤郁哉:フィールドワーク贈訂版一書を持って街へ出よう 新曜社</p> <p>⑤課題提出および平常点(100%)</p> <p>⑥この科目は「卒業研究Ⅰ、Ⅱ(4年)」と関連する科目である。課題を提出していても、3分の2以上の出席がない場合には単位を取得できない。</p>				

科目名	M032 リハビリテーション看護学	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	福井 里美、三浦 里織、山本 美智代、 清水 準一、	前期・前半	木曜日		4 時限
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 ④テキスト・参考書 ⑤成績評価方法 ⑥特記事項	<p>①本講義では、リハビリテーションにおける看護の役割について講義する。</p> <p>②リハビリテーションを必要とする対象の理解、リハビリテーション医療チームにおける看護の役割と援助の実際について学ぶ。</p> <p>③第1回 リハビリテーションと看護の役割・障害受容の心理プロセスと援助(福井) 第2回 機能障害のセルフケアの獲得と医療支援体制の実際(武藤) 第3回 脳血管障害患者のリハビリテーション(小川) 第4回 喉頭・食道がん患者の術後リハビリテーション(三浦) 第5回 心筋梗塞患者のリハビリテーション(清水) 第6回 脳性麻痺のある子どものリハビリテーション(山本) 第7回 廃用性症候群の予防と機能維持のためのリハビリテーション(福井) 第8回 まとめ(リハビリテーション看護とは)</p> <p>④参考書 雄西智恵美・秋元典子編:成人看護学 周手術期看護論 第3版 ヌーベルヒロカワ 2014 鈴木志津枝・藤田佐和編:成人看護学 慢性期看護論 第3版 ヌーベルヒロカワ 2014 奥宮暁子他編:ナーシング・グラフィカ リハビリテーション看護学 メディカ出版 2010 中西純子・石川ふみよ編:成人看護学 リハビリテーション看護論 第2版 ヌーヴェルヒロカワ 2008 中島紀恵子他著:老年看護学 第7版 医学書院 2010 武田宣子他編:系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第5版 医学書院 2004</p> <p>⑤試験 70%、出席 30%</p> <p>⑥1)本科目を履修しないと臨地看護学実践実習(成人慢性期)を履修することができない。 2)講師の都合により、講義順が変わる場合がある。</p>				

科目名	M039 精神看護学Ⅱ	科目種別	看護・3年・必修	単位数	1
担当教員	山村 礎、廣川 聖子、川添 美花	前期	水曜日	2 時限	
①授業方針・テーマ	①本講義では、あらゆる状況下にある精神障害・疾患を持つ対象者とその家族や周囲の人々に対する看護を、精神看護学Ⅰで学んだ知識および考え方をもとにして実践的に理解する方法を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②精神看護学Ⅰで学んだ知識をもとに、ロールプレイや演習を通じ、対象との関わりの築き方、看護のあり方を体験的に理解できることを目標とする。また精神看護学領域のみならず、各看護領域における対人的関わりについても熟慮できるようになることを目標とする。				
③授業計画・内容	③第1項目:実習という実践にむけて 第2項目:第3項目:資料で見る精神科(患者さん、看護師、環境) 第4項目:第5項目:精神障害を持つ人の心の痛みとは? 第6項目:第7項目:私達が精神看護で目指す方向とは何か? 第8項目:第9項目:人格障害・依存症を持つ対象の観察・コミュニケーション・看護 第10項目:器質性疾患をもつ対象の観察・コミュニケーション・看護 第11項目:発達障害をもつ対象の観察・コミュニケーション・看護 第12項目:ライフサイクルと危機的状況、その看護 第13項目:地域・職域・学校精神保健 第14項目:世界における精神看護の現状 第15項目:精神看護と精神保健福祉法				
④テキスト・参考書	④必要時資料を配布する他、適宜指定する。				
⑤成績評価方法	⑤レポート60%、演習態度20%、出席20%				
⑥特記事項	⑥本科目は、看護師国家試験の必須科目である。 また、3年次の臨地看護学実践実習(精神)の履修のための必修科目である。				

科目名	M018 臨地看護学実践実習 (成人慢性期)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	3
担当教員	福井 里美、西村 ユミ、飯塚 哲子、 三浦 里織、新井 清美	前期			
①授業方針・テーマ	①既習の知識・理論・技術を活用し、慢性・長期的な疾病とともに生活する対象者とその家族を理解し、個別性、状況、セルフケア能力に応じた援助を、看護過程を用いて実践する基本的能力を養う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 対象者および家族と良好な援助の人間関係を築く。 2. 既習の知識・技術・理論を活用して対象者と家族の個性や疾病の程度に応じた看護計画を立案する。 3. 対象者および家族が、生活背景や発達段階、健康レベルの状態に応じてセルフケア能力を高め、疾病をもちながらも質の高い生活を実現できるよう援助し評価する。 4. 自己の看護活動の言語化、他者との共有、建設的な意見交換を通して、学びを深める。 5. 看護学生として責任ある行動をとり、より質の高い看護を創造していく姿勢をもつ。				
③授業計画・内容	③本科目は実習形式(実習に必要な学内演習も含む)で行う。 実習施設: がん・感染症センター都立駒込病院、東京都保健医療公社東部地域病院、国立国際医療研究センター病院 実習方法: 1. 実習期間中に、1～3名の対象者を受け持ち、看護過程を用いた看護実践を行う。 2. 実習メンバー、実習指導者、教員と情報交換や意見交換を通して、対象者の理解、援助のあり方について学習を深める。 3. カンファレンス、ケース発表において積極的な意見交換をし、学びを共有する。				
④テキスト・参考書	④テキスト: 雄西智恵美他編集:周手術期看護論 第3版、ニューヴェルヒロカワ、2014 鈴木志津枝・藤田佐和他編:成人看護学慢性期看護論 第3版、ニューヴェルヒロカワ、2014 参考書: 池松裕子他編集:急性期看護論、ニューヴェルヒロカワ、2005 宮下光令編:ナースング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第2版、メディカ出版、2016 他				
⑤成績評価方法	⑤出席状況、実習記録、実習態度、ケース発表資料、レポート、実習自己評価表により実習目標の達成度に関して総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥1)実習の詳細については、3年次に配布する「実習要項」を熟読すること。また7月の実習前に開催する実習オリエンテーションに参加しない者は実習に参加することができない。 2)本科目の履修にあたっては、「基礎看護学実習Ⅱ」、「成長発達看護学(成人)」、「成長発達看護学演習(成人)」、「実践基礎援助学(急性期看護学概論)」、「実践基礎援助学(慢性期看護学概論)」、「実践基礎援助学(急性期看護学各論)」、「実践基礎援助学(慢性期看護学各論)」、「リハビリテーション看護学」を事前に履修している必要がある。				

科目名	M058 臨地看護学実践実習 (成人急性期)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	2
担当教員	飯塚哲子、福井里美、新井清美、西村ユミ	後期			
①授業方針・テーマ	①既習の知識・理論・技術を活用し、症状や徴候の発現が急激で生命の危機状態にある急性期から回復過程に至る対象者、およびその家族への看護援助を通して、看護に必要な実践能力を習得する。さらに自己の看護実践を振り返り、専門職としての看護の役割を考察し、質の高い看護を探求していく姿勢を育む。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 対象者および家族と援助的な人間関係を築く。 2. 急性期から回復期に至る対象者と家族の全体像を理解する。 3. 急性期から回復期に至る対象者の個別性をとらえ、必要な看護計画を立案する。 4. 看護上の問題を解決するために、対象者の状態を考慮して安全・安楽な援助を実践する。 5. 手術室の見学を通して、手術室における看護を学ぶ。 6. 自己の看護活動を言語化し、他者と建設的な意見交換を通して学びを深める。 7. 看護学生として責任ある行動をとり、より質の高い看護を創造していく姿勢をもつ。				
③授業計画・内容	③本科目は実習形式で行う。 実習施設: 東京都立墨東病院 急性期病棟 実習方法: 1. 実習施設で実習前現地オリエンテーションを実施する。 2. 実習期間中に1~3名の急性発症疾患、または手術などの侵襲性の高い治療を受ける対象者を受け持ち、急性期から回復期までの看護過程を用いた看護実践を行う。 3. 学生カンファレンス、まとめのカンファレンスを行い、実習での学びを共有する。				
④テキスト・参考書	④テキスト: 雄西智恵美他編集: 周手術期看護論 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2014 鈴木志津枝・藤田佐和他編: 成人看護学慢性期看護論 第3版, ヌーベルヒロカワ, 2014 参考書: 池松裕子他編集: 急性期看護論, ヌーヴェルヒロカワ, 2005 宮下光令編: ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第2版, メディカ出版, 2016 他				
⑤成績評価方法	⑤出席状況、実習態度、看護実践、実習記録により総合的に行う。				
⑥特記事項	⑥1) 実習の詳細については、3年次に配布する「実習要項」の記載事項を熟読すること。また実習オリエンテーションを適宜、開催するので掲示等をよく確認すること。実習オリエンテーション(墨東病院現地オリエンテーションおよび実習前オリエンテーション)に参加しない者は実習を行うことができない。 2) 本科目の履修にあたっては、「臨地看護学実践実習(成人慢性期)」を事前に履修している必要がある。				

科目名	M059 臨地看護学実践実習(母性)	科目種別	看護・3年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	園部 真美、木村 千里、楯 亜希子	後期			
①授業方針・テーマ	①周産期を中心とした家族形成期の対象者を全人的に理解し、健康な産褥期の生活を送るために、どのような援助が必要かを判断でき、実践することができる。また、生命誕生の場に接することを通して、生命の神秘や人の命の尊さについて、考えを深めることができる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期について、生理的、心理社会的特徴とその経過を理解できる。 2. 産褥期、新生児期の母子に対する看護援助の必要性を明らかにし、看護過程に基づいた援助を実践できる。 3. 新しく子どもを迎える家族全体を対象として、援助を実践できるようになる。 4. 地域における母性看護活動について、理解できる。 5. 妊産褥婦の援助を通して、生命誕生のすばらしさや親としての存在について、考えを深める。				
③授業計画・内容	③本科目は実習形式で行う。 実習場所: 首都圏および近隣の病院・助産所 実習方法: 1. 産褥・新生児実習では、1組の母子を受け持ち看護過程を展開する。 2. 分娩室実習では、産婦を受け持ち分娩第1期のケアを一部実施し、第2期から3期について見学実習とする。 3. 助産所実習では、各助産所の活動に参加する。				
④テキスト・参考書	④特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤実習内容、記録物 80%、出席状況・実習態度 20%				
⑥特記事項	⑥実習の詳細については、3年次に配布する「実習要項」の記載事項を熟読すること。また実習オリエンテーションを適宜、開催するので掲示等をよく確認すること。 「履修の手引き」に記載の通り、本科目の履修にあたっては、「看護病態生理学(周産期学)」、「成長発達看護学(母性)」、「成長発達看護学演習(母性)」を事前に履修している必要がある。				

科目名	M060 臨地看護学実践実習(小児)	科目種別	看護・3年・必修 クラス指定	単位数	2
担当教員	山本 美智代、種吉 啓子、高嶋 希世子、 飯村 直子	後期			
①授業方針・テーマ	①病気や障害のために入院することや治療を受けることが、子どもや家族にどのような影響をもたらすのかを理解し、子どもと家族にとってよりよい闘病環境を整えるための援助方法を学ぶことを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②実習目標 【保育園実習】 ・地域で生活する健康な子どもの成長発達、社会生活のあり方について理解する。 ・個々の子どもの発達段階や基本的な生活習慣の自立状況を理解し、それに応じた保育士の援助方法や子どもとのコミュニケーションのとり方を学ぶ。 ・子どもの成長発達と生活環境との関係について理解する。 【病院実習】 ・成長発達する存在である子どもと家族が、子どもの健康障害やそれに付随した環境の変化により、どのような影響を受けているのかアセスメントし、必要な援助を考える。 ・子どもと家族にとって必要な援助を実施し、評価する。 ・自分と子ども・家族との間にはどのような相互作用があったのか、また、自分は何を学び、どのように変化したのかを振り返り、今後の自己の課題を明らかにする。				
③授業計画・内容	③本科目は、実習形式でおこなう。 実習施設：荒川区内の保育園、東京北医療センター、東京都立小児総合医療センター 実習方法：保育園では、担当者の指導のもとに実習をおこなう。病院実習では、ひとりの子どもを受け持ち、子どもの疾患や成長・発達を理解して、子どもやその家族の生活の状況を評価し、そのアセスメントをもとにして看護計画を立案、実施、評価する。				
④テキスト・参考書	④特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤出席状況や取り組み 10%、保育園実習 10%、病院実習 70%、実習での学び 10%				
⑥特記事項	⑥詳細については、別途配布する「実習要項」に記載されている事項を熟読すること。 また、事前にオリエンテーションを開催するので、日時と場所についての掲示等を確認すること。 本科目の履修にあたっては、「成長発達看護学(小児)」、「成長発達看護学演習(小児)」を事前に履修している必要がある。				

科目名	M061 臨地看護学実践実習(高齢者)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	2
担当教員	勝野 とわ子、増谷 順子	後期			
①授業方針・テーマ	①医療機関・施設での高齢者看護の実践をとおして、高齢者を理解し、生活の質を考慮した個別の看護活動ができる基礎能力を養う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 加齢現象および疾病を持っている対象を全人的に把握できる。 2. 看護過程を展開し、生活の質を考慮した個別の看護活動が実践できる。 3. 高齢者看護における保健・医療・福祉との連携や協力の必要性を理解できる。				
③授業計画・内容	③本科目は実習形式で行う。 実習施設：国立国際医療研究センター国府台病院、他 実習方法：1-2 人の高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。適宜、医師、ソーシャルワーカー、理学療法士、栄養士、介護福祉士等の職員を交えたカンファレンスを行い、他職種との連携について学ぶ。また介護保険などの保険制度とケアの在り方、調整についても理解を深める。				
④テキスト・参考書	④テキストは、特に定めない。しかし、2 年、3 年で指定されている高齢者看護学関係科目教科書、参考書、授業中の資料などを使用し実習を展開する。				
⑤成績評価方法	⑤実習内容、記録物、出席状況などから実習目標の達成度に関して総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥実習の詳細については、3 年次に配布する「実習要項」の記載事項を熟読すること。 また実習オリエンテーションを適宜、開催するので掲示等をよく確認すること。 「履修の手引き」に記載の通り、本科目の履修にあたっては、「成長発達看護学(高齢者)」、「成長発達看護学演習(高齢者)」を事前に履修している必要がある。				

科目名	M062 臨地看護学実践実習(精神)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	2
担当教員	山村 礎	後期			
①授業方針・テーマ	①精神科専門医療機関に入院している精神障害を持つ方の暮らしにくさや、悩みなどを理解し、専門職として援助できる対象として捉え個別の援助活動を立案し、援助をおこなうことができる能力を養う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1)精神障害をもつ対象を、精神看護学、精神医学、心理学など関連領域での既習知識を最大限活用して多角的に把握できる。 2)既習で得た知識や用語の概念を、臨床の現場で実際の事象として確認することができる。 3)1)と 2)をふまえて、対象を援助の必要な一人の人間として捉え、看護職として個別の援助活動を実践できる。				
③授業計画・内容	③本科目は実習形式で行う。 実習施設:都立松沢病院 実習方法: ・実習施設で実習前オリエンテーションを行い、病院の概要を理解する。 ・実習前に学習レポートを作成し、既習の知識や用語をまとめておく。 ・臨床の現場で、精神症状や精神障害とよばれる現象を確認する。 ・受け持ち患者と関わるなかで、問題を把握し具体的援助を行う。				
④テキスト・参考書	④特に定めない。				
⑤成績評価方法	⑤提出記録物 60%、出席 20%、実習態度 20%				
⑥特記事項	⑥・実習の詳細については、3年次に配布する「実習要項」に記載してある事項を熟読すること。 ・実習オリエンテーションを実習施設で開催するので掲示等をよく確認すること。 ・「履修の手引き」に記載の通り、本科目の履修にあたっては、「精神看護学Ⅰ」、「精神看護学Ⅱ」ならびに「看護病態生理学Ⅳ」を事前に履修している必要がある。				

科目名	M064 臨地看護学実践実習(在宅)	科目種別	看護・3年・必修	単位数	2
担当教員	島田 恵、清水 準一、戸村 ひかり	後期			
①授業方針・テーマ	①在宅看護は、在宅<療養の場>で行なわれる看護である。地域で療養する人々とその家族に対する在宅看護の展開に必要な基礎的な能力を育成する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 実習する訪問看護提供施設・退院支援部門について学ぶ。 2. 在宅療養者と療養環境の特徴を理解することができる。 3. 在宅看護の一連のプロセスについて学ぶ。 4. 在宅療養者や在宅等に移行する療養者に対する看護の展開について学ぶ。 5. 在宅療養者に必要な社会資源の活用やチーム活動について学ぶ。				
③授業計画・内容	③本科目は実習形式で学ぶ。 実習施設:東京都内の訪問看護ステーション、東京都立病院等の退院支援部門 実習方法: 1) 実習前に事前学習およびオリエンテーションを行う。 2) 医療を必要としながら在宅で生活している療養者や在宅高齢者などへの同行訪問を行う。 3) 訪問看護の一連のプロセスについて見学・参加する。 4) 施設内や地域におけるケアカンファレンスに参加する。 5) 必要に応じ学生カンファレンスを行い、看護実践に参加した療養者に対する支援方法などについて検討する。 6) 実習終了後に学生カンファレンスを行い、学びを共有する。				
④テキスト・参考書	④テキスト:「在宅看護学」「在宅看護学演習」「家族発達看護学」の各講義で使用した教科書、資料、参考書および実習要項 参考書:「パーフェクト臨床実習ガイドーライフステージに沿った看護技術と看護の展開ー在宅看護実習ガイド」山田雅子編集 照林社				
⑤成績評価方法	⑤面接および実習記録、課題レポート、出席状況、実習参加度(真摯な態度、主体的な学習)等をもとに、実習目標の達成度に関して総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥・実習の詳細については、3年次に配布する「実習要項」および実習オリエンテーション資料の記載事項を熟読すること。 ・実習オリエンテーションを適宜開催するので、掲示やeラーニングシステム kibaco 等をよく確認すること。 ・「履修の手引き」に記載のとおり、本科目の履修にあたっては「在宅看護学」「在宅看護学演習」「家族発達看護学」を事前に履修している必要がある。 ・実習中、個人宅への自転車での訪問が多いため、自転車に乗れない者、動物等のアレルギーがある者、その他自分の体調等に関する心配がある者は早めに教員まで相談すること。				

科目名	M247 卒業研究 I	科目種別	看護・4年・必修	単位数	2
担当教員	飯村 直子、全教員(健看護)	前期	月曜日 火曜日	1・2・3・4 時限 1・2時限	
①授業方針・テーマ	①「看護研究」「臨地実習」で学習した成果と本科目における「卒業研究ゼミ」の学びを統合して、各自が設定した研究課題にそって研究計画を立案する。「卒業研究ゼミ」は指導教員のもと個別またはグループで行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②設定した研究課題の解決に向けた研究計画を立案する能力を身につける。				
③授業計画・内容	③学生の関心にあわせた研究領域とテーマを選択し、指導教員の指導のもとに「卒業研究ゼミ」を体験する。 研究課題と研究デザインの選び方を学び、研究計画書を作成する。 「卒業研究ゼミ」の内容や進め方は、指導教員によって異なるので、別途周知する。				
④テキスト・参考書	④南裕子編(2012):看護における研究(第1版6刷),日本看護協会出版会,東京(第6章).				
⑤成績評価方法	⑤ゼミへの参加(20%)、文献検討の取り組み・研究計画への取り組み・計画書の論理性(70%)、計画書の形式(10%)として、総合的に評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M251 総合臨地看護学実習	科目種別	看護・4年・必修	単位数	4
担当教員	全教員(健看護)	前期			
①授業方針・テーマ	①②既習の知識・理論・技術をもとに、成人・母性・小児・高齢者・精神・公衆衛生・在宅の領域の中から、学生が関心を持つ領域を選択し、総合的な看護能力を高めるとともに、実践を向上させる姿勢や研究態度を養う手がかりとする。実習では、対象に応じた計画的な看護実践、チーム医療、他職種との協働の中での看護職としてのメンバーシップ、リーダーシップについて学ぶ。また、専門分野での実務に即した実践能力を養うため、複数受け持ちや一勤務帯を通した実習を可能な範囲で実施し、看護職の役割について考察する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標					
③授業計画・内容	③(成人看護学)健康問題をもった対象者が、医療機関と接してからの一連のプロセスを把握するとともに、各期の状態に応じた看護ケアを計画・実践し、考察する力を養う。具体的には、1)クリティカルケア(救命救急センター・ICU)、2)急性期ケア(外科、循環器科)、3)回復期ケア(リハビリテーション)、慢性期・終末期ケアのいずれかを選択し、各期における看護を主体的に実践し、共有する。また、救急自動車同乗実習を通してプレホスピタルケアの実際を見学し、救急医療に対する理解を深める。 (母性看護学)既習の母性看護関係の授業をふまえて、女性特有の疾患をもつ対象者及びその家族への看護実践を専門病棟・外来等の施設において展開する。 (小児看護学)重症化する子どもの障害や疾病にともない必要とされている高度な看護について、これまでの講義や実習で習得した看護能力を発展させ、実践する能力を養う。また、子どもと家族の成長発達に応じて、地域や学校などを含めた病院外へと広がる看護の継続性や広域性について理解し、看護の専門性を考える。 (高齢者看護学)高齢者およびその家族に対する包括的アセスメント能力に基づく看護実践能力を高めるとともに、個人・家族・地域の関連性について理解を深める。この実習を通して主体的に質の高い看護を創造する姿勢と研究的態度を養う。 (精神看護学)前半の見学実習にて地域における精神障害者を支える施設の現状を把握した上で、各自問題意識を持ち、精神科病棟、精神科外来、作業所、学校精神保健施設のいずれかで後半の施設実習を行う。 (公衆衛生看護学)地域のさまざまな組織・機関、多職種の連携や、地域の状況にそった切れ目のない保健・医療・福祉体制と支援の方法に関する学内実習と、地域包括支援センターで実習を行う。 (在宅看護学)自宅で療養生活を送る人々が持っている健康問題について学ぶため、訪問看護ステーション、病院の退院調整部門・外来看護部門において主体的に実習計画を立案し、問題解決をはかるための総合的な看護能力を養う。				
④テキスト・参考書	④領域ごとに説明を行う。				
⑤成績評価方法	⑤評価方法、記録その他の詳細については、事前のオリエンテーション時に領域ごと説明する。				
⑥特記事項					

科目名	M252 看護管理学	科目種別	看護・4年・必修	単位数	1
担当教員	石川 陽子	前期・前半	火曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①効率的な看護サービスを提供するために必要な組織におけるマネジメントの基本的知識・理論を学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②看護におけるマネジメントの基盤となる理論を学び、リスクマネジメント、チーム医療、キャリア開発について理解を深める。また、看護サービスを効率的に行うために必要とされる病院経営、医療・看護政策の動向について理解する。				
③授業計画・内容	③項目1:看護におけるマネジメント 項目2:キャリア開発 項目3:リスクマネジメント ①項目4:リスクマネジメント ②項目5:医療、看護政策の動向 項目6:病院経営と看護 項目7:チーム医療 項目8:試験・解説				
④テキスト・参考書	④参考図書:上泉和子他 系統看護学講座看護管理, 医学書院				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験により判定する。				
⑥特記事項					

科目名	M241 看護管理学実習	科目種別	看護・4年・必修	単位数	1
担当教員	石川 陽子	前期			
①授業方針・テーマ	①質の高い看護サービスを実施するために必要なマネジメントの実際について理解する。病院内の諸部門における看護の役割および他職種との連携について理解し、医療・看護の質の向上のための総合的な視野を養う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1. 看護部の機能と役割、病棟管理における看護管理者の役割を理解する。 2. 医療安全・感染管理におけるチーム医療を理解する。 3. 外来、退院支援室等、病棟以外の部門における看護職の役割を理解する。 4. 専門看護師・認定看護師等、専門性の高い看護職の役割を理解し、看護職のキャリア開発・人材育成について考察する。 5. ロジスティクス部門を含めた他職種の役割を理解し、連携の必要性および効率的なサービスの提供のあり方について考察する。				
③授業計画・内容	③4つのグループに分かれ異なる施設において実習を行う。実習日程については別にオリエンテーションを行う。 1. がん・感染症センター都立駒込病院 2. 東京都立多摩総合医療センター 3. 東京都立小児総合医療センター 4. 東京都立広尾病院 実習方法 1.施設内各部門の担当者からの講義を受け、各部門／看護管理者／専門性の高い看護職の組織における役割を考察する。 2.病棟管理者のシャドウイング、外来実習、褥瘡回診等を通じて多様な看護職の役割を理解する。 3.学内にて各々の実習部門での情報を交換し学びを共有する。				
④テキスト・参考書	④指定しない。				
⑤成績評価方法	⑤実習態度・実習記録・課題レポートにて判定する。				
⑥特記事項	⑥実習施設により実習時期が異なる。				

科目名	M240 ヘルスアセスメント実践演習	科目種別	看護・4年・必修	単位数	1
担当教員	飯塚哲子、西村ユミ、習田明裕、園部真美、島田恵、山村礎、山本美智代、種吉啓子、勝野とわ子	後期		月曜日	5 時限
①授業方針・テーマ	①対象者の成長発達段階に伴う身体的・精神的・社会的側面を総合的にアセスメントするための講義・演習を行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②対象者の成長発達段階に伴う、身体的・精神的・社会的側面を総合的にアセスメントするために、各期の対象者の特徴に焦点を当てたヘルスアセスメントの知識・技術を習得する。				
③授業計画・内容	③項目 1:オリエンテーション・ヘルスアセスメント総括 項目 2:ヘルスアセスメント演習① 項目 3:ヘルスアセスメント演習② 項目 4:母性看護学領域におけるヘルスアセスメント① 項目 5:母性看護学領域におけるヘルスアセスメント② 項目 6:地域・在宅で療養している人のアセスメント① 項目 7:地域・在宅で療養している人のアセスメント② 項目 8:成人期のヘルスアセスメント① 項目 9:成人期のヘルスアセスメント② 項目 10:心理社会的側面のアセスメント① 項目 11:心理社会的側面のアセスメント② 項目 12:子どものヘルスアセスメント① 項目 13:子どものヘルスアセスメント② 項目 14:高齢者のアセスメント① 項目 15:高齢者のアセスメント②				
④テキスト・参考書	④テキスト:志自岐康子・城生弘美, 他編;基礎看護学 ヘルスアセスメント, メディカ出版, 2014 参考書:エレイン N マリーフ;人体の構造と機能, 第3版, 医学書院, 2010 :古屋伸之編;診察と手技がみえる Vol.1 第2版, メディックメディア, 2007 *上記以外にも必要時追加する。				
⑤成績評価方法	⑤7領域でのオムニバス形式による講義・演習となるため、領域毎に評価項目(演習参加態度、レポート等の課題提出、出欠)にそって評価を行い、7領域の合計点を最終評価とする。				
⑥特記事項	⑥講義・演習を連続して行うなど、変則的に授業日程が組まれているため、オリエンテーション時の授業日程を各自で参照する。 また、演習時間以外に自己学習時間を要する。				

科目名	M242 地域看護学Ⅱ	科目種別	看護・4年・必修	単位数	1
担当教員	河原 加代子	後期・前半		水曜日	3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①本講義は、これからの地域看護学を考えていく方向性を構想する上で、地域看護に関わる今日的な話題について講義する。またあわせて地域看護学のまとめとして位置づける。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②1)地域看護活動におけるシステムづくりの基本的な考え方と方法について理解できる。 2)地域保健行政における管理的な能力、倫理的問題の調整能力、保健事業の企画・立案・実施・評価について理解できる。 3)地域看護活動における看護サービス:組織づくりと経営の基本的な考え方を演習をとおして学ぶ。				
③授業計画・内容	③ 授業計画・内容は次の通りである。 1:地域看護活動におけるシステムづくりの基本的な考え方と方法①[担当:河原] 2:災害サイクルに応じた看護活動と地域ケアシステム①[担当:早野] 3:災害サイクルに応じた看護活動と地域ケアシステム②[担当:早野] 4:在宅ホスピスケアシステムの構築過程における地域保健活動[担当:米澤] 5:在宅ホスピスケアシステムの運用と評価[担当:米澤] 6:地域看護サービス:組織づくりと経営管理①[担当:江畑] 7:地域看護サービス:組織づくりと経営管理②(演習)[担当:江畑] 8:地域看護活動におけるシステムづくりの基本的な考え方と方法②[担当:河原] -災害時の地域保健活動において新たな仕組みを考案する-(演習)				
④テキスト・参考書	④テキスト:配付資料 参考書:国民衛生の動向、厚生統計協会、最新版 参考書:国民衛生の動向、厚生統計協会、最新版 参考書:杉本正子・眞船拓子編:わかりやすい関係法規、NOUVELLE HIROKAWA、最新版				
⑤成績評価方法	⑤評価:①課題レポートの提出 50% ②受講態度・発表・演習への参加度等 50%				
⑥特記事項					

科目名	M245 ホスピス緩和ケア論	科目種別	看護・4年・必修	単位数	1
担当教員	飯塚 哲子、福井 里美	後期・前半	火曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	①緩和ケアを必要とする対象者およびその家族の状況について、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面からとらえ、現代の緩和ケアのあり方について社会的な状況もふまえた視点で考察する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②緩和ケアにおける基本的な考え方、緩和ケアを必要とする対象者の心身の変化とその援助、および家族への支援などについてこれまでの実習で考えたこと、学んだことをふまえて互いに共有し、さらに各自の看護観を深めていく。				
③授業計画・内容	③授業内容 1:緩和ケアと終末期看護 2:予後不良のがん告知を受けた患者・家族 3:最期を迎える時に患者・家族が臨むこと 4:がん患者の就労支援 5:がん患者・家族への相談対応とサポートグループ 6:がん患者のからだところどころのつらさを支える緩和ケア 7:終末期から看取り後までの家族・遺族へのサポート 8:まとめ				
④テキスト・参考書	④テキスト: 特に指定しない。講義内で適宜紹介する。 参考書: 宮下光令編:ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 第2版, メディカ出版, 2016				
⑤成績評価方法	⑤レポート 70%、出席状況 30%				
⑥特記事項	⑥なし				

科目名	M246 看護倫理学	科目種別	看護・4年・必修	単位数	1
担当教員	習田 明裕、野村 亜由美、三輪 聖恵、前田 耕助	後期・前半	月曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	①看護は人間を対象として展開される実践科学である。よって人間を尊重すること、すなわち患者の人権を尊重することは、看護が看護たりうる基盤となる重要な理念である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②本講義では患者の人権を尊重するという観点から、生命倫理に関する理論や原則、看護における倫理的概念を学習する。また実習を通して経験した倫理的ジレンマ状況について検討し、倫理的判断能力を養う。				
③授業計画・内容	③第1回 倫理の基礎 1)倫理と道徳 2)規範倫理学 3)価値 4)倫理原則 5)生命倫理学 第2回 看護倫理のアプローチ 1)社会背景 2)法的責任 3)専門性 4)倫理的概念 第3回 看護倫理に関する重要な概念: 1)個人の権利 2)インフォームド・コンセント 3)守秘義務 第4回 看護実践上の倫理的概念 1)専門職 2)アドボカシー 3)協力 4)ケアリング 第5回 倫理的問題とその対応 1)倫理的不確かさ 2)倫理的葛藤 3)倫理的悩み 第6回 グループワーク・ディスカッション 1)倫理的意思決定モデル 2)臨床倫理検討法 第7回 看護活動と倫理、まとめ				
④テキスト・参考書	④教科書: 志自岐康子, 習田明裕, 他編:基礎看護学:看護学概論, メディカ出版, 2014 参考書: Fry, Sara T.(片田範子他訳):看護実践の倫理:倫理的意思決定のためのガイド(第3版), 日本看護協会出版会, 2011.				
⑤成績評価方法	⑤講義への参加度:レポート提出(80%)、平常点(20%)				
⑥特記事項	⑥看護実践においていかに対象者の人権を尊重できるか、問題意識をもって講義に臨むこと。				

科目名	M249 英文文献講読	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	石川 陽子、島田 恵、山村 礎、 飯村 直子、西村 ユミ	通年		金曜日	3,4 時限
①授業方針・テーマ	①各専門領域の研究論文のクリティークを行う。学生は毎回予習をして議論に参加することが求められる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・諸外国の看護関連分野の研究の動向を知る。 ・洗練された学術論文の書き方を理解する。				
③授業計画・内容	③最新文献の読解・クリティーク 項目1:国際保健学領域 項目2:成人看護学領域 項目3:精神看護学領域 項目4:小児看護学領域 項目5:国際看護学領域 項目6:看護管理学領域 項目7:在宅看護学領域 項目8:まとめ・課題作成				
④テキスト・参考書	④参考書:山川みやえ他 よくわかる看護研究論文のクリティーク 日本看護協会出版会				
⑤成績評価方法	⑤出席および授業への参加度 50%、課題レポート 50%				
⑥特記事項	⑥教員によっては講義時間を変更する場合がある。				

科目名	M250 医療経済学	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	谷田 一久 *	夏期集中			
①授業方針・テーマ	①医療のあり方について、医療経済・医療経営の視点がいかなるものかを理解する場となる。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②医療を“傷病者を手当てする社会的機能”と定義し、その機能を発揮するための組織や社会制度について、それらの歴史的背景、構造の変遷、社会に対する影響についての理解を深めることをこの授業の目的とする。単に知識の習得を目的とするのではなく、社会の一機能としての医療を社会的アプローチによって理解し、説明する力を養成したいと考えている。また、将来のリーダーとして理解しておくべき組織経営の理論についても言及するつもりである。				
③授業計画・内容	③1回:わが国の医療制度のあゆみ 2回:医療の定義と医療経営・医療経済 3回:病院という組織の特異性 4回:人材教育をささえる組織観 5回:事例>ディズニーの経営 6回:医療に関わるお金のはなし 7回:医療界におけるプレイヤーたち 8回:ディスカッション“健全な医療とは?”				
④テキスト・参考書	④川渕孝一 『初学者のための医療経済入門』(医療のあゆみ社)				
⑤成績評価方法	⑤レポート“学んだこと、考えたこと” 具体的なテーマについては授業中に指示する。				
⑥特記事項	⑥配布資料はない。パワーポイントは必要に応じて使用する。				

科目名	M339 災害看護学	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	増谷 順子、勝野 とわ子	前期・後半	水曜日		3, 4 時限
①授業方針・テーマ	①大震災などの災害発生時における危機管理に有用な人材を育成する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②災害看護についての理解を深め災害サイクルに応じた適切な看護実践への理解を深めるとともに災害発生時に行動できる知識と技術を習得する。さらに災害発生に被災を最小にする予防・準備活動についても実践を通して理解する。				
③授業計画・内容	③1)災害看護について理解する。 2)震災への備えの現状、地域(荒川区)の防災対策の現状を理解する。 3)医療者としてのトリアージに関する基本的な知識を理解する。 4)救急蘇生法、包帯法の知識と技術1 5)救急蘇生法、包帯法の知識と技術2 6)地域における防災訓練の現状を理解するとともに社会貢献の重要性を理解する。 7)災害時に看護職が担う役割と機能について理解を深める。				
④テキスト・参考書	④未定				
⑤成績評価方法	⑤授業、演習への参加、技術の習得度、レポートなどを総合的に評価する。				
⑥特記事項	⑥災害看護について実際に役立つ知識と技術を学ぶ。				

科目名	M279 ケアマネジメント論	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	斉藤 恵美子、清水 準一、増谷 順子	後期・後半	火曜日		1, 2 時限
①授業方針・テーマ	①この授業では、ケアマネジメントについての歴史、概念、基本的技術に関する知識について講義します。また、病院・施設や在宅、地域におけるケアマネジメントの目的と過程、対象となる人々やその家族への支援について学びます。さらに、多職種で課題を共有し、それらを解決する視点や方法を身につけることを主眼とします。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・ケアマネジメントの歴史、概念、基本的技術について理解できる。 ・病院や在宅、地域におけるケアマネジメントの過程とその特徴を述べることができる。 ・よりよいケアマネジメントのあり方とその方法について、自分の意見を述べるができる。				
③授業計画・内容	③第1回 ケアマネジメントの概要 第2回 地域のケアマネジメント① 第3回 在宅のケアマネジメント① 第4回 在宅のケアマネジメント② 第5回 病院や施設のケアマネジメント① 第6回 病院や施設のケアマネジメント② 第7回 地域のケアマネジメント② 第8回 事例検討、文献検討(課題学習)				
④テキスト・参考書	④教科書 特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。 参考書 「新版・社会福祉学習双書」編集委員会編(2008). ケアマネジメント論(改訂 6 版). 東京: 全国社会福祉協議会.				
⑤成績評価方法	⑤課題レポートの内容(80%)、授業参加の態度・積極性(20%)により評価します。課題レポートについては、授業時間数の 3 分の 2 以上出席した学生が、指定した期日までに提出した場合を評価の対象とします。欠席等は減点します。				
⑥特記事項	⑥保健師国家試験を受験する学生(看護学科)の履修を推奨します。また、高齢者ケア・在宅ケアなどに関する分野と、介護支援専門員の資格に興味・関心のある学生の履修を推奨します。				

科目名	M244 国際看護学	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	石川 陽子、野村亜由美	後期・前半	金曜日		1, 2 時限
①授業方針・テーマ	①国際的視野を広めると共に異文化背景を持つ対象者への看護の視点を育成する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②保健・医療分野における国際的視点を育成することを目的とし、世界の健康格差について考えるとともに看護職が行う国際協力活動について考察する。また、異文化背景を持つ患者を理解し、ケアに活かすための異文化看護について理解を深める。				
③授業計画・内容	③項目1:世界の健康状況 項目2:開発途上国の健康問題 項目3:開発と文化(1) 項目4:開発と文化(2) 項目5:看護師の世界的移動 項目6:看護の世界的動向 項目7:ケーススタディ(1) 項目8:ケーススタディ(2)				
④テキスト・参考書	④適宜紹介する。 参考書:南裕子 国際看護学 中山書店				
⑤成績評価方法	⑤授業への参加度50%、課題50%				
⑥特記事項					

科目名	M248 卒業研究Ⅱ	科目種別	看護・4年・選択	単位数	2
担当教員	全教員(健看護)	後期	水曜日 ----- 金曜日		1 時限 ----- 5 時限
①授業方針・テーマ	①「看護研究」の学習内容と、「卒業研究Ⅰ」で作成した研究計画書にそって、データ収集、分析、論文執筆という一連の研究過程を学習する。「卒業研究ゼミ」は、指導教員のもと個別または小グループで行う。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②一連の研究過程を理解し、結果をまとめて発表する能力を身につける。 看護研究の成果が看護実践の向上にどのように寄与するのかを理解する能力を身につける。				
③授業計画・内容	③「卒業研究Ⅰ」で作成した研究計画書にそって、指導教員の指導のもと「卒業研究ゼミ」を体験する。データの収集方法と分析方法を学び、研究論文を作成する。最終的に作成された研究論文は、卒業研究発表会にて口頭で発表する。なお「卒業研究ゼミ」の内容や進め方は、教員によって異なるので、別途周知する。				
④テキスト・参考書	④南裕子編(2012):看護における研究(第1版6刷),日本看護協会出版会,東京. 中山和弘他(2012):看護情報学,医学書院,東京.				
⑤成績評価方法	⑤ゼミへの参加(10%)、研究への取り組み・論文の形式・論文の論理性(70%)、発表会での論述性(20%)として、総合的に評価する。				
⑥特記事項					

科目名	M341 公衆衛生看護実践論	科目種別	看護・4年・選択	単位数	2
担当教員	斉藤 恵美子、吉田 和樹	前期	水曜日	1, 2, 3, 4 時限	
①授業方針・テーマ	①この授業では、地域で生活する人々とその家族や、集団・組織と地域全体を対象とした公衆衛生看護実践の展開方法と、実践の根拠となる法制度の知識について、教科書や配布資料を使用して講義します。また、最新の動向や実践的な技術と知識を学ぶため、行政保健師の講義を設定しています。なお、公衆衛生看護実践に関する基本的な援助技術(家庭訪問、問診など)については、ロール・プレイによる演習を行います。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・公衆衛生看護実践の対象となる個人、家族、集団・組織、地域の特性について、理解することができる。 ・公衆衛生看護実践の展開方法と、それらの活動の根拠となる法制度を関連づけて述べることができる。 ・公衆衛生看護実践に関する基本的な援助技術を理解することができる。				
③授業計画・内容	③第1回 オリエンテーション 第2回 公衆衛生看護と保健師の役割 第3回 母子保健の動向と保健師の実践① 第4回 母子保健の動向と保健師の実践② 第5回 家庭訪問演習:オリエンテーション 第6回 家庭訪問演習:記録の書き方 第7回 家庭訪問演習:実施① 第8回 家庭訪問演習:事例検討 第9回 成人保健の動向と保健指導 第10回 高齢者保健の動向と保健指導 第11回 保健事業計画と保健師の役割 第12回 感染症予防対策と保健師の実践 第13回 家庭訪問演習:実施② 第14回 精神保健福祉の動向と保健師活動 第15回 家庭訪問演習:実施と評価 第16回 筆記試験				
④テキスト・参考書	④教科書 佐伯和子編(2014).公衆衛生看護学テキスト2公衆衛生看護技術. 東京:医歯薬出版株式会社. 岡本玲子編(2014).公衆衛生看護学テキスト3公衆衛生看護活動Ⅰ. 東京:医歯薬出版株式会社. 荒木田美香子編(2014).公衆衛生看護学テキスト4学校保健・産業保健. 東京:医歯薬出版株式会社. 参考書 麻原きよみ編(2014).公衆衛生看護学テキスト1公衆衛生看護学原論. 東京:医歯薬出版株式会社. 井伊久美子, 他編(2014). 新版保健師業務要覧. 東京:日本看護協会出版会. 長江弘子, 他(2004). 保健師必携 こう書けばわかる! 保健師記録. 東京:医学書院. 宮本ふみ(2006). 無名の語り:保健師が「家族」に会う12の物語. 東京:医学書院.				
⑤成績評価方法	⑤筆記試験(80%)、授業参加の態度・積極性(小テスト、演習等)(20%)、出席状況(欠席等は減点)により評価します。				
⑥特記事項	⑥公衆衛生看護学実習については、本科目の単位を修得(予定)していなければ履修することができません。				

科目名	M342 公衆衛生看護技術論	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	斉藤 恵美子、吉田 和樹	前期	木曜日	1, 2, 3, 4 時限	
①授業方針・テーマ	①この授業は、グループワークによる演習を中心として進めます。演習では、地域に生活する人々とその家族の健康課題を明らかにし、支援の方法を考慮する過程を討議します。この演習を通して、学生が、地域に生活する人々の健康課題の解決に向けた地域診断過程の展開の方法と技術を身につけることを期待します。なお、グループワークでの作業の前提として、地域診断の目的と理論的枠組み、展開方法についての知識や情報を提示します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・地域診断の目的と理論的枠組み、展開方法について理解することができる。 ・グループでの討議により、地域に生活する人々のニーズを把握し、優先度の高い健康課題を明らかにすることができる。 ・地域に生活する人々の課題解決に向けた方策について、自分の意見を述べるることができる。				
③授業計画・内容	③第1回 地域診断の理論的枠組みと展開方法 第2回 演習：オリエンテーション 第3回 演習：テーマ設定と情報収集① 第4回 演習：テーマ設定と情報収集② 第5回 演習：情報収集とアセスメント 第6回 演習：アセスメントと分析 第7回 演習：結果の整理と考察 第8回 演習：成果のまとめ 第9回 演習：発表準備① 第10回 演習：発表準備② 第11回 演習：成果発表① 第12回 演習：成果発表② 第13回 学校保健・産業保健① 第14回 学校保健・産業保健② 第15回 行政で働く保健師の活動と政策化				
④テキスト・参考書	④教科書 平野かよ子編(2015). 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論. 東京:メヂカルフレンド社. 佐伯和子編(2014). 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版株式会社. 岡本玲子編(2014). 公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動 I. 東京: 医歯薬出版株式会社. 参考書 井伊久美子, 他編(2014). 新版保健師業務要覧. 東京: 日本看護協会出版会.				
⑤成績評価方法	⑤演習の成果(80%)、授業参加の態度・積極性(20%)、出席状況(欠席は減点)により評価します。この授業はグループワークによる演習を中心に進めますので、評価については授業参加の態度・積極性を重視します。出席時間数が本科目の授業時間数の3分の2に満たないときは、評価の対象外とします。筆記試験は実施しません。				
⑥特記事項	⑥公衆衛生看護学実習については、本科目の単位を修得(予定)していなければ、履修することができません。				

科目名	M343 公衆衛生看護管理論	科目種別	看護・4年・選択	単位数	1
担当教員	斉藤 恵美子、猫田 泰敏、吉田 和樹	後期・後半	火曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	①この授業では、公衆衛生看護管理についての基本的な知識について講義します。また、公衆衛生看護実践での事業評価や管理の実践については、実習での学びを振り返り、学習を深めます。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②・公衆衛生看護管理の目的と展開過程について理解することができる。 ・公衆衛生看護管理の基本的な知識を理解することができる。 ・公衆衛生看護実践での事業計画・企画、運営、評価に関する方法を理解することができる。				
③授業計画・内容	③第1回 オリエンテーション、公衆衛生看護管理の定義と特徴 第2回 実習の学びについてのまとめ(報告と討論) 第3回 事業管理・予算管理と保健福祉対策 第4回 健康危機管理① 第5回 健康危機管理② 第6回 公衆衛生看護における疫学の応用 第7回 事業の基盤となる法制度 第8回 レポート作成				
④テキスト・参考書	④教科書 平野かよ子編(2015). 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論. 東京:メヂカルフレンド社. 佐伯和子編(2014). 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術. 東京: 医歯薬出版株式会社. 岡本玲子編(2014). 公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動 I. 東京: 医歯薬出版株式会社. 参考書: 一般社団法人厚生労働統計協会(2015). 国民衛生の動向. 東京: 一般社団法人厚生労働協会.				
⑤成績評価方法	⑤課題レポートの内容(80%)、授業参加の態度・積極性(20%)、出席状況(欠席等は減点)により評価します。				
⑥特記事項					

科目名	M344 公衆衛生看護学実習	科目種別	看護・4年・選択	単位数	5
担当教員	斉藤 恵美子、猫田 泰敏、吉田 和樹	通年			
①授業方針・テーマ	①本科目は、学外での実習を中心に進めます。学外実習では、特別区の保健所・保健センターで、公衆衛生看護実践の実際を体験し、基本的な知識や技術を学び、実践に必要な能力を養うことを主眼とします。学内実習では、学習効果を高め、施設での実習をより円滑に進めるために、事前課題を提示します。履修者には、本科目の実習目標にそって自己目標を設定し、積極的な学習態度で実習に臨むことを期待します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②<実習目的> 地域で生活している人々と彼らを取り巻く環境についての理解を深め、公衆衛生看護の基本的な知識、技術を習得する。 <実習目標> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で生活する人々とその家族への支援の実際を通して地域の潜在的、顕在的健康課題を明らかにし、解決・改善策を企画、立案する能力を養う。 ・ 地域の人々と協働し、地域の人々が自らの健康課題を解決・改善して健康増進能力を高めるよう支援し評価する能力を養う。 ・ 地域の健康危機管理(感染症・虐待・DV・自殺・災害等)の体制を整え、健康危機の発生時から回復期の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応する能力を養う。 ・ 地域の人々の健康を保障するための生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する能力を養う。・保健・医療・福祉および社会に関する最新の知識・技術を主体的・系統的に学び、実践の質を向上させる能力を養う。 				
③授業計画・内容	③<実習施設> 特別区保健所・保健センター <実習内容> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習前に、学内と実習施設で事前学習、事前事業見学などを行う。 ・ 学生は、グループごとに配置された特別区の保健所、保健センターで実習する。 ・ 保健所・保健センターなどの管内の地域概況を把握し、地域に生活する人々の健康や生活上の課題をアセスメントする。 ・ 家庭訪問、健康教育、健康診査、健康相談、地区組織活動、関連施設などを見学・体験し、保健活動の実際を学ぶ。 ・ 毎日の実習終了後にグループカンファレンスを行い、日々の学習を整理・共有する。また、実習指導者が同席するカンファレンス(中間・最終)では、学びを共有して理解を深める。 				
④テキスト・参考書	④教科書 佐伯和子編(2014).公衆衛生看護学テキスト2公衆衛生看護技術. 東京:医歯薬出版株式会社. 岡本玲子編(2014).公衆衛生看護学テキスト3公衆衛生看護活動Ⅰ. 東京:医歯薬出版株式会社. 荒木田美香子編(2014).公衆衛生看護学テキスト4学校保健・産業保健. 東京:医歯薬出版株式会社. 平野かよ子編(2015).最新保健学講座5公衆衛生看護管理論. 東京:メヂカルフレンド社. 参考書 井伊久美子, 他編(2014).新版保健師業務要覧. 東京:日本看護協会出版会. 長江弘子, 他(2004).保健師必携 こう書けばわかる!保健師記録. 東京:医学書院.				
⑤成績評価方法	⑤実習目標到達度(80%)、実習参加の態度・積極性(20%)、出席状況(欠席等は減点)により評価します。				
⑥特記事項	⑥詳細については、実習要項に記載している事項を熟読してください。また、事前にオリエンテーションを実施しますので、掲示を確認してください。本科目の履修については、「公衆衛生看護実践論」「公衆衛生看護技術論」を事前に履修している必要があります。				

科目名	M606 養護実習事前事後指導	科目種別	看護・4年・ 養護教諭課程必修	単位数	1
担当教員	上原 美子 *	前期	水曜日		3,4,5 時限
①授業方針・テーマ	①養護実習Ⅰ・養護実習Ⅱの事前・事後において、既知の養護教諭教育課程での学習内容の確認と統合を行い、実習での様々な機会を活用して養護教諭として実践的な知識、技術、能力を最大限獲得できるようにする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②事前学習としては養護実習で必要となる学校教育・養護実践に関わる法制度、児童・生徒の身体面、精神面の健康状態の把握や家庭や社会環境のアセスメントの方法、個別の健康相談や救急処置等の対応方法、集団を対象とした保健指導、保健学習の指導案の作成と実践方法、保健室経営の方法等の知識や技術を獲得する。実習終了後は実習内容の振り返りや発表を通じて、問題点や疑問点と自らの課題を明確にし、養護教諭としての実践力を向上させる。				
③授業計画・内容	③1) 養護実習本申請ガイダンス及びコースオリエンテーション 2) 学校組織と養護教諭の役割 3) 学校保健計画・学校安全計画とその運用 4) 児童・生徒の包括的理解の方法 5) 健康診断とその後の対応 6) 救急処置と校内、校外との連携 7) 健康相談の実際 8) 保健室経営 9) 指導案の作成 10) 模擬授業の実施 11) 実習校についての事前調査 12) 合同指導オリエンテーションと準備 13) 合同指導①14) 合同指導②15) まとめ 注) 12)以下については、養護実習修了後に開講する。				
④テキスト・参考書	④テキスト: 1) 学校保健・安全実務研究会編著 新訂版学校保健実務必携 第3次改訂版、第一法規参考書: 適宜紹介する。				
⑤成績評価方法	⑤授業への参加状況、レポート等による総合評価				
⑥特記事項	⑥看護学科養護教諭教育課程の必修科目である。 本科目を履修しないと養護実習Ⅰ・養護実習Ⅱを履修することができない。				

科目名	M607 養護実習Ⅰ	科目種別	看護・4年・ 養護教諭課程必修	単位数	2
担当教員	上原 美子 *	前期			
①授業方針・テーマ	①学生が既習の教職及び養護に関する科目等の学修を基盤に、教育現場において自ら教育・養護の活動を実践することを通じて、養護教諭としての実践力を向上させることを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②養護実習Ⅰ・Ⅱを通じて、下記の4つを学ぶことを目標とする。教育上の効果を高めるため2つの実習は同一校にて連続した4週間の実習を一体的に行うことを原則とするが、養護実習Ⅰでは実習目標の1)及び2)、養護実習Ⅱでは実習目標の3)及び4)を達成するものとする 1) 教育機関の理解及び教育者としての基本的な姿勢・態度を獲得する 2) 学校における児童・生徒の生活状況と健康問題を理解する 3) 養護教諭の役割と職務、保健室経営を理解する 4) 学校保健・養護上の問題を抱えた児童・生徒への対応方法を学ぶ				
③授業計画・内容	③各自で依頼を所定の手続きを終了したついで実習校において、下記の内容について、「講話」、「観察」、「参加」、「実地実習」といった形態により、学修を深める。 1) 学校における教育計画、学校保健計画、学校安全計画、生徒指導等の状況 2) 児童・生徒の健康状態の把握、定期健康診断等の計画・実施、事後対応 3) 学校環境衛生活動、安全管理、感染症の予防及び対応 4) 救急処置と対応、救急体制 5) 個別および集団を対象とした保健教育(保健指導・保健学習)、健康相談 6) 保健組織活動、学校・家庭・地域との連携 7) 保健室経営及び関連事務 8) 養護教諭の資質の向上に関する活動 実習方法の詳細については、事前に実施されるガイダンスで配布される「養護実習の手引き」、「養護実習要項・実習録」を参考にすること				
④テキスト・参考書	④テキスト: 1) 学校保健・安全実務研究会編著 新訂版学校保健実務必携 第3次改訂版: 第一法規参考書: 適宜紹介する				
⑤成績評価方法	⑤実習への参加状況、実習録やレポート等による総合評価				
⑥特記事項	⑥看護学科養護教諭教育課程の必修科目である。 養護実習Ⅰ・養護実習Ⅱは連続した4週間で行うことを原則とする。 履修にあたっては、予備申請ガイダンスや本申請ガイダンスに出席して、説明や配布資料に基づき所定の手続きを終えている必要がある。				

科目名	M608 養護実習Ⅱ	科目種別	看護・4年・ 養護教諭課程必修	単位数	2
担当教員	上原 美子 *	前期			
①授業方針・テーマ	①学生が既習の教職及び養護に関する科目等の学修を基盤に、教育現場において自ら教育・養護の活動を実践することを通じて、養護教諭としての実践力を向上させることを目的とする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②養護実習Ⅰ・Ⅱを通じて、下記の4つを学ぶことを目標とする。教育上の効果を高めるため2つの実習は同一校にて連続した4週間の実習を一体的に行うことを原則とするが、養護実習Ⅰでは実習目標の1)及び2)、養護実習Ⅱでは実習目標の3)及び4)を達成するものとする 1) 教育機関の理解及び教育者としての基本的な姿勢・態度を獲得する 2) 学校における児童・生徒の生活状況と健康問題を理解する 3) 養護教諭の役割と職務、保健室経営を理解する 4) 学校保健・養護上の問題を抱えた児童・生徒への対応方法を学ぶ				
③授業計画・内容	③各自で依頼を所定の手続きを終了したついで実習校において、下記の内容について、「講話」、「観察」、「参加」、「実地実習」といった形態により、学修を深める。 1) 学校における教育計画、学校保健計画、学校安全計画、生徒指導等の状況 2) 児童・生徒の健康状態の把握、定期健康診断等の計画・実施、事後対応 3) 学校環境衛生活動、安全管理、感染症の予防及び対応 4) 救急処置と対応、救急体制 5) 個別および集団を対象とした保健教育(保健指導・保健学習)、健康相談 6) 保健組織活動、学校・家庭・地域との連携 7) 保健室経営及び関連事務 8) 養護教諭の資質の向上に関する活動 実習方法の詳細については、事前に実施されるガイダンスで配布される「養護実習の手引き」、「養護実習要項・実習録」を参考にすること				
④テキスト・参考書	④テキスト：1)学校保健・安全実務研究会編著 新訂版学校保健実務必携 第3次改訂版：第一法規 参考書：適宜紹介する				
⑤成績評価方法	⑤実習への参加状況、実習録やレポート等による総合評価				
⑥特記事項	⑥看護学科養護教諭教育課程の必修科目である。 養護実習Ⅰ・養護実習Ⅱは連続した4週間で行うことを原則とする。 履修にあたっては、予備申請ガイダンスや本申請ガイダンスに出席して、説明や配布資料に基づき所定の手続きを終えている必要がある。				

科目名	M609 教職実践演習(養護教諭)	科目種別	看護・4年・ 養護教諭課程必修	単位数	2
担当教員	宮下与兵衛* 中下 富子* 竹下 智美* 上原 美子*	後期・前半		木曜日	3,4,5 時限
①授業方針・テーマ	①本授業は、当該授業以外の教職課程に関する授業科目の履修や教職課程以外での活動を通じて学生が身につけた能力を、教師になるのに必要な資質能力の全体として有機的に統合すると共に、確実に身に付けているかを確認することを目標とします。 該当科目は、養護教諭免許				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	②教員として求められる資質や能力を、1)使命感や責任感、教育的愛情及び社会性や対人関係に関する事項、2)生徒理解や保健室経営等に関する事項、3)養護の実践力に関する事項として捉え、グループ討議や役割演技、事例研究及び模擬指導等を取り入れた演習を行うと共に、すぐれた実践から学び、教師としての資質・能力の向上を図ります。 また、第1学年から履修してきた教職課程や第4学年前期の養護実習等の修学状況を振り返り、養護教諭になるための自己の課題について自覚し、養護教諭になろうとする意欲を高めます。				
③授業計画・内容	③第1回 学級運営と保健室についての研究 第2回 保健室における生徒指導の演習 第3回 保護者対応の演習 第4回 学校経営の研究(学外演習) 第5回 学校経営の研究(学外演習) 第6回 学校経営の研究(学外演習) 第7回 学校で行う救急処置の範囲と学校における緊急時の連絡体制 第8回 救急処置の実際(外科的なもの) 第9回 救急処置の実際(内科的なもの) 第10回 生徒への健康相談の演習① 第11回 生徒への健康相談の演習② 第12回 生徒への健康相談の演習③ 第13回 学校保健委員会の運営実施の演習 第14回 児童生徒保健委員会の実践演習 第15回 危機対応時の組織活動の演習				
④テキスト・参考書	④授業の中で指示します。				
⑤成績評価方法	⑤出席、レポート、授業態度等を総合し、複数の担当教員が協議して評価します。				
⑥特記事項	⑥教育実習に準じる科目なので、欠席・遅刻は認められていません。 公欠の場合は事前に申し出て、指示を受けてください。 授業は、10月下旬より11月中旬まで、毎週木曜日の3・4・5限授業を行っていきます。日程は掲示します。 学外実習を半日行います。その日は掲示しますから空けておいてください。				